愛媛大学埋蔵文化財調査室年報

── 2010年度 ──

愛媛大学埋蔵文化財調査室

２０１２

序　　文

国立大学法人愛媛大学の敷地は、松山市内および愛媛県内各所に点在し、敷地総面積は464ヘクタールに及ぶ。そのうち、大学本部と４つの学部が所在する城北団地には文京遺跡、農学部と附属高等学校がある樽味団地には樽味遺跡、国際交流会館がある鷹子団地には鷹子遺跡、教職員宿舎のある北吉井団地には桑原西稲葉遺跡など、数多くの遺跡がある。これまで、愛媛大学では、埋蔵文化財調査室を設置し、校舎建設や営繕工事等の際、埋蔵文化財への影響度をはかるための試掘調査を行い、埋蔵文化財が諸工事で影響を受ける場合には、影響度に応じて全面調査、立会調査を実施してきた。さらに、大学構内における遺跡の有無や精度の高い分布状況を把握する確認調査を実施し、埋蔵文化財の保護に努めている。

こうした発掘調査成果を客観的に資料化し、調査報告書にまとめて公開することによって遺跡の評価が行われる。ところが、愛媛大学の場合、出土品の多さと頻繁な発掘調査によって、速やかな報告書刊行を容易に行えない状況にあった。こうした状況を打開するため、2000年に大規模な全面調査の報告書刊行に向けて調査室の体制を再整備し、整理作業を前進させる一方で、小規模調査である試掘･立会･確認調査についての報告と、本格調査の概要報告を併せた『埋蔵文化財調査室年報』を刊行してきた。本書は、その2010年度に実施した埋蔵文化財調査等をまとめた年報である。

本書をまとめるにあたっては、学内はもとより学外の多くの機関・個人の方々から協力を得た。その労に深く感謝するとともに、本書が多くの方々に利用・活用されることを願っております。

平成24年３月１日

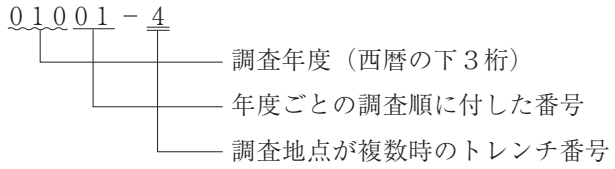
愛媛大学埋蔵文化財調査室長

田　崎　博　之

例　　言

1．本書は、愛媛大学埋蔵文化財調査室が2010年度に実施した事業、特に大学構内で実施した試掘・立会・確認形式で行った小規模調査の成果等を報告する愛媛大学埋蔵文化財調査室年報であり、愛媛大学埋蔵文化財調査報告XXⅢにあたる。

2．埋蔵文化財調査室では、本格全面調査・構内遺跡確認調査については、遺跡ごとに調査次数を付しているが、同時に、1975年から始まった大学構内の発掘調査まで遡って、立会・試掘形式の小規模調査も含めて、すべての調査に調査番号を与えている。調査番号は、西暦の下３桁の後に年度ごとの調査順に01からの２桁の通し番号を加えた５桁の番号で表示している。調査番号に加えて、複数の地点(トレンチ)を調査した場合、－の後に地点番号を付して表示している。



3．本書では、遺構番号に冠して、掘立柱建物：SB、竪穴式住居：SC、溝：SD、炉跡・竈：SF、柵列：SA、水田：SS、土壙：SK、柱穴・小穴：SP、自然流路：SR、その他の遺構：SXの記号で遺構の種別を表している。

4．本書で表示した方位・標高数値は、本格調査においては、日本測地系（Tokyo Datum）平面直角座標系第Ⅳ系にしたがっている。ただし、試掘・立会調査・確認調査で座標系が利用できなかった場合は、調査地点周囲の平板測量成果を掲載し、磁北を表示している。

5．土色・遺物の色調は、1991年以降、小山正忠・竹原秀雄編著（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）『新版標準土色帖』に準拠しているが、本文中ではマンセル記号は省略した。

6．本書に使用した遺構図は、田崎博之・三吉秀充・宮崎直栄・田中いづみが作成し浄写を行った。

7．本書で使用した写真は、田崎・三吉が撮影した。

8．本書は田崎・三吉が執筆し、三吉が編集を行った。

9．本書に報告した調査に係わる記録類・出土遺物は、愛媛大学埋蔵文化財調査室において保管している。

本文目次

Ⅰ　埋蔵文化財調査委員会と埋蔵文化財調査室の事業 ……1
1　埋蔵文化財調査委員会 ……1
(1) 第１回埋蔵文化財調査委員会 ……1
(2) 第２回埋蔵文化財調査委員会 ……1
(3) 第３回埋蔵文化財調査委員会 ……1
2　2010年度の埋蔵文化財調査室の事業 ……3
(1) 調査と体制 ……3
(2) 整理作業 ……3
(3) 印刷物の刊行 ……3
(4) 広報、資料等の利活用 ……3
3　愛媛大学構内における埋蔵文化財包蔵地の見直しについて ……9

Ⅱ　2010年度の発掘調査 ……21
00905　(御幸団地) 学生寄宿舎新営その他工事に伴う調査 (御幸遺跡１次調査２～９区) ……21
01001　(樽味団地) 附属高校畜舎新築工事に伴う発掘調査 (樽味遺跡９次調査) ……38
01002　(樽味団地) 植物工場新営その他工事に伴う調査 (樽味遺跡10次調査) ……40
01004　(樽味団地) 植物工場新営その他工事に伴う調査 (樽味遺跡11次調査) ……48

挿図目次

図１　0202道後樋又遺跡 ……11
図２　0209持田遺跡 ……11
図３　0081樽味遺跡 ……12
図４　0157-２桑原西稲葉遺跡 ……12
図５　0207御幸遺跡 ……13
図６　城北団地調査地点位置図 (縮尺1/2000) ……15・16
図７　持田団地調査地点位置図 (縮尺1/2000) ……17
図８　樽味・北吉井調査地点位置図 (縮尺1/2000) ……18
図９　山越団地調査地点位置図 (縮尺1/2000) ……19
図10　重信団地調査地点位置図 (縮尺1/3000) ……20
図11　00905調査 (御幸遺跡１次) 調査区配置図 (縮尺1/500) ……22
図12　01001調査 (樽味遺跡９次) 平面図・土層断面図 (縮尺1/50) ……39
図13　01002調査 (樽味遺跡10次) Ⅰ区平面図 (縮尺1/150)・土層断面図 (縮尺1/100・1/150) ……41・42
図14　01002調査 (樽味遺跡10次) Ⅱ区・Ⅲ区平面図 土層断面図 (縮尺1/50) ……46
図15　01004調査 (樽味遺跡11次) 平面図 (1/500)・土層柱状図 (縮尺1/40) ……49

写真目次

写真１　（城北団地）愛大ミューズL形側溝補修工事立会 …… 5
写真２　（城北団地）愛大ミューズL形側溝補修工事立会 …… 5
写真３　（城北団地）愛大ミューズL形側溝補修工事立会 …… 5
写真４　（城北団地）愛大ミューズL形側溝補修工事立会 …… 5
写真５　（持田団地）中予エリアサービス総合工事立会 …… 5
写真６　（持田団地）中予エリアサービス総合工事立会 …… 5
写真７　（持田団地）中予エリアサービス総合工事立会 …… 5
写真８　（持田団地）中予エリアサービス総合工事立会 …… 5
写真９　（持田団地）中予エリアサービス総合工事立会 …… 6
写真10　（持田団地）中予エリアサービス総合工事立会 …… 6
写真11　（持田団地）中予エリアサービス総合工事立会 …… 6
写真12　（城北団地）駐車場整備工事立会 …… 6
写真13　（城北団地）駐車場整備工事立会 …… 6
写真14　（城北団地）第３体育館新営その他工事立会 …… 6
写真15　（城北団地）第３体育館新営その他工事立会 …… 6
写真16　（城北団地）第３体育館新営その他工事立会 …… 7
写真17　（城北団地）第３体育館新営その他工事立会 …… 7
写真18　（城北団地）第３体育館新営その他工事立会 …… 7
写真19　（城北団地）理学部北側囲障改修工事立会 …… 7
写真20　（城北団地）理学部北側囲障改修工事立会 …… 7
写真21　（城北団地）理学部北側囲障改修工事立会 …… 7
写真22　（城北団地）理学部北側囲障改修工事立会 …… 7
写真23　（城北団地）理学部北側囲障改修工事立会 …… 8
写真24　（城北団地）理学部北側囲障改修工事立会 …… 8
写真25　（樽味団地）植物工場環境制御システム一式の据付調査工事立会 …… 8
写真26　（樽味団地）植物工場等新営その他工事立会 …… 8
写真27　（樽味団地）植物工場等新営その他工事立会 …… 8
写真28　（樽味団地）植物工場等新営その他工事立会 …… 8
写真29　公開講座の様子（１）…… 8
写真30　公開講座の様子（２）…… 8
写真31　00905調査２区全景（西から）……24
写真32　00905調査２区西半部土層断面 ……24
写真33　00905調査２区西端部のⅡ- ５層水田面に残る足跡 ……24
写真34　00905調査２区西端部のⅡ- ４層砂礫層から出土した土師器 ……24
写真35　00905調査２区SD-201・202 ……24
写真36　00905調査３・４区全景（東から）……24
写真37　00905調査３区北壁土層断面 ……24
写真38　00905調査３区Ⅱ- ５層水田面の完掘状況（東から）……25
写真39　00905調査３区SD-301 ……25
写真40　00905調査３区SK-302 ……25
写真41　00905調査４区SK-401及びSD-402検出状況 ……25
写真42　00905調査４区SD-402完掘状況 ……25
写真43　00905調査４区古墳時代水田層下底面及びSD-403 ……25
写真44　00905調査４区SD-403検出状況 ……26
写真45　00905調査４区SD-403及び畦畔完掘状況 …26
写真46　00905調査４区水田層下底面に残る足跡 …26

写真47　00905調査５区全景（表土剥ぎ後、西から）……26
写真48　00905調査５区中世遺構面の完掘状況（東から）……26
写真49　00905調査５区SE-501検出状況（西から）…28
写真50　00905調査５区SE-501石組み残存状況（北から）……28
写真51　00905調査５区SE-501石組み調査状況（北から）……28
写真52　00905調査５区SE-501半裁状況（北西から）……28
写真53　00905調査５区SE-501完掘状況１（北から）……28
写真54　00905調査５区SE-501完掘状況２（北から）……28
写真55　00905調査５区SE-501完掘状況３（北から）……28
写真56　00905調査５区SE-501底面に設置された曲げ物出土状況（北東から）……28
写真57　00905調査５区SD-541（北から）……29
写真58　00905調査５区SD-541土層堆積状況（西から）……29
写真59　00905調査５区SD-541遺物出土状況……29
写真60　00905調査５区SD-529・530・542（古墳時代、北西から）……29
写真61　00905調査５区SD-542～544（西から）…29
写真62　00905調査５区東半部SR-534（東から）……30
写真63　00905調査５区SD-542～544（東から）…30
写真64　00905調査５区SD-545及びSR-534（北東から）……30
写真65　00905調査５区SD-546、SK-547（東から）……30
写真66　00905調査５区SK-547（北東から）……30
写真67　00905調査６区全景（表土剥ぎ後、西から）……31
写真68　00905調査６区建物余掘り壁面から出土した弥生時代終末期の土器……31
写真69　00905調査６区西半部Ⅲ層上部遺物出土状況１（南西から）……31
写真70　00905調査６区西半部Ⅲ層上部遺物出土状況２（南西から）……31
写真71　00905調査６区西半部Ⅲ層上部遺物出土状況３……31
写真72　00905調査６区西半部Ⅲ層上部遺物出土状況４……31
写真73　00905調査６区西半部Ⅲ層上部出土コップ形土器……31
写真74　00905調査６区西半部Ⅲ層上部出土打製石鏃……31
写真75　00905調査６区西半部SD-602～604検出状況（東から）……32
写真76　00905調査６区全景（SD-602～604完掘後、東から）……32
写真77　00905調査６区西半部SD-602～604完掘状況（東から）……32
写真78　00905調査６区西半部SD-602～604完掘状況（西から）……32
写真79　00905調査６区西半部SD-607～609、SX-611・612検出状況（東から）……33
写真80　00905調査６区西半部SD-607～609、SX-611・612検出状況（西から）……33
写真81　00905調査６区西半部SD-607～609、SX-611・612完掘状況（西から）……33
写真82　00905調査６区全景（SD-607～609、SX-611・612完掘後、東から）……33
写真83　00905調査６区西半部SD-607～610、SX-611・612完掘状況（東から）……33
写真84　00905調査６区西半部SD-610、SX-611・612完掘状況（南から）……34
写真85　00905調査６区SD-608・SX-611（南東から）……34
写真86　00905調査６区SD-608出土打製石斧……34
写真87　00905調査６区SD-610（西から）……34
写真88　00905調査６区Ⅳ層上面出土遺構（東から）……35
写真89　00905調査６区SX-618完掘状況（東から）……35
写真90　00905調査６区SX-618完掘状況（北から）……35
写真91　00905調査６区SX-618土層堆積状況……36
写真92　00905調査６区SD-619土層堆積状況……36
写真93　00905調査６区SR-621（西から）……36
写真94　00905調査６区SR-621遺物出土状況……36
写真95　00905調査６区SP-622……36
写真96　00905調査６区SP-623……36
写真97　00905調査６区SP-624……36

写真98　00905調査７区全景（完掘後、北から）……37
写真99　00905調査７区SD-703・704（東から）……37
写真100　00905調査７区SD-713　……37
写真101　00905調査７区SD-705・706、柱穴群 ……37
写真102　01001調査調査区遠景（東から）……40
写真103　01001調査完掘状況（南から）……40
写真104　01002調査調査区遠景（北東から）……44
写真105　01002調査Ⅰ区遠景（北西から）……44
写真106　01002調査Ⅰ区Ⅳ層上面遺構検出状況（東から）……44
写真107　01002調査Ⅰ区Ⅳ層遺構完掘状況（東から）……44
写真108　01002調査Ⅰ区北端部Ⅳ層上面遺構検出状況（東から）……44
写真109　01002調査Ⅰ区北端部Ⅳ層上面遺構完掘状況（東から）……44
写真110　01002調査Ⅰ区東端部遺構検出状況（北から）……44
写真111　01002調査Ⅰ区SP-23完掘状況（西から）……44
写真112　01002調査Ⅰ区中央部Ⅳ層上面遺構検出状況（東から）……45
写真113　01002調査Ⅰ区中央部Ⅳ層上面遺構完掘状況（西から）……45
写真114　01002調査Ⅰ区北東部Ⅳ層上面遺構検出状況（西から）……45
写真115　01002調査Ⅰ区北東部Ⅳ層上面遺構完掘状況（西から）……45
写真116　01002調査Ⅰ区南東部Ⅳ層上面遺構検出状況（北から）……45
写真117　01002調査Ⅰ区Ⅳ層上面遺構完掘状況（北から）……45
写真118　01002調査Ⅰ区南端部Ⅳ層上面遺構検出状況（東から）……45
写真119　01002調査Ⅰ区南端部Ⅳ層上面遺構検出状況（西から）……45
写真120　01002調査Ⅰ区SX-15遺構検出状況（東から）……47
写真121　01002調査Ⅰ区SX-15完掘状況（東から）……47
写真122　01002調査Ⅰ区SX-16遺構検出状況（東から）……47
写真123　01002調査Ⅰ区SX-16完掘状況（東から）……47
写真124　01002調査Ⅰ区西側拡張区東側完掘状況（北から）……47
写真125　01002調査Ⅰ区西側拡張区西側完掘状況（北から）……47
写真126　01002調査Ⅱ区完掘状況（東から）……47
写真127　01002調査Ⅲ区完掘状況（東から）……47
写真128　01004調査１トレンチ完掘状況（西から）……50
写真129　01004調査２トレンチ完掘状況（西から）……50
写真130　01004調査３トレンチ完掘状況（西から）……50
写真131　01004調査４トレンチ完掘状況（西から）……50

表　目　次

表１　2010年度の埋蔵文化財調査委員会と埋蔵文化財調査室の体制…… 1
表２　2010年度の埋蔵文化財調査依頼・照会一覧…… 4
表３　2010年度発掘調査一覧…… 4
表４　2010年度調査室・調査室資料利用一覧…… 9
表５　御幸遺跡１次調査の調査区割りと調査期間……21

資 料 目 次

資料１　国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会規程…… 2
資料２　国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査室設置要項 …… 2

Ⅰ　埋蔵文化財調査委員会と埋蔵文化財調査室の事業

1　埋蔵文化財調査委員会

埋蔵文化財調査室は、「国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会規定」（資料１）に基づき設置された埋蔵文化財調査委員会の下、業務運営を行っている。2010年度の埋蔵文化財調査委員会の体制は表１の通りである。2010年度の埋蔵文化財調査委員会は、2010年６月９日（第１回）と2010年８月２日（第２回）に開催された。また、2010年10月22日には、電子メールを用いて第３回委員会を行った。

（1）第１回埋蔵文化財調査委員会

第１回埋蔵文化財調査委員会では、まず、愛媛大学所有地における埋蔵文化財分布状況の見直しに伴う松山市教育委員会へ提供する情報について審議された。渡邉委員長から、これまでの経緯について説明があり、埋蔵文化財調査室で作成した埋蔵文化財調査カードを松山市教育委員会に提出したいとの提案があった。2010年３月23日開催の2009年度第２回埋蔵文化財調査委員会、４月６日開催の役員会、４月14日開催の教育研究評議会においてすでに了承されていることから、原案通り提出することとなった。

報告事項として、渡邉委員長から、城北団地駐車場整備計画（案）（以下、「整備計画案」と記す）の資料が提示され、城北団地駐車場の整備について関係会議で了承済みであるとの報告があった。整備計画案では、1998年10月、愛媛大学が文京遺跡の重要性を考慮し学生・市民の憩いの広場（グリーンゾーン）とした範囲をアスファルト舗装の駐車場とするものであった。複数の委員から、愛媛大学がグリーンゾーンを決定した経緯を踏まえた上で、施設マネジメント委員会などで整備計画案について再検討するべきではないかとの意見が出された。

（2）第２回埋蔵文化財調査委員会

第２回埋蔵文化財調査委員会では、2009年度事業報告、2009年度会計報告について報告・審議された。まず、田崎室長から2009年度実施事業（１．発掘調査、２．整理作業、３．発掘調査調査報告書等の執筆編集・印刷、４．利活用）の説明があり、了承された。つづいて、田崎室長から、2009年度会計について報告があり、審議の結果、原案通り了承された。

（3）第３回埋蔵文化財調査委員会

第１回埋蔵文化財調査委員会では松山市教育委員会に埋蔵文化財調査カードを提出することが了承されたが、これに基づく埋蔵文化財包蔵地の範囲を見直した結果が、2010年10月に愛媛県教育委員会から松山市教育委員会を通じて愛媛大学に通知され、「周知の埋蔵文化財包蔵地」の取扱いについて報告があった。その詳細は、「３　愛媛大学構内における埋蔵文化財包蔵地の見直しについて」で報告する。

表１　2010年度の埋蔵文化財調査委員会と埋蔵文化財調査室の体制

埋蔵文化財調査委員会			
	所属・役職	氏　名	備　考
委員長	理事（総務担当）	渡邉　春重	
委　員	法文学学部長	黒木　幹夫	
委　員	法文学部教授	田崎　博之	埋蔵文化財調査室長
委　員	法文学部教授	松原　弘宣	
委　員	教育学部長	壽　　卓三	
委　員	教育学部教授	川岡　　勉	
委　員	理学部長	佐藤　成一	
委　員	医学部長	大西　丘倫	
委　員	工学部長	村上　研二	
委　員	農学部長	林　　和男	
委　員	経営企画部長	板橋　俊夫	
委　員	財務部長	山村　　滋	
委　員	施設基盤部長	岡信　孝則	

埋蔵文化財調査室		
	氏　名	所　属
室　　長	田崎　博之	法文学部教授
調　査　員	吉田　　広	ミュージアム准教授
調　査　員	三吉　秀充	法文学部助教
専　門　員	松原　弘宣	法文学部教授
専　門　員	村上　恭通	東アジア古代鉄文化研究センター長
専　門　員	川岡　　勉	教育学部教授
教務補佐員	宮崎　直栄	施設基盤部施設企画課
事務補佐員	田中いづみ	施設基盤部施設企画課
技能補佐員	井手野文江	施設基盤部施設企画課
技能補佐員	門田　　都	施設基盤部施設企画課（～2010年４月30日）
技能補佐員	坂本あずさ	施設基盤部施設企画課（2010年５月１日～）

資料１　国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会規程

（設置）
第１条　国立大学法人愛媛大学（以下「法人」という。）に，国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（任務）
第２条　委員会は，文化財保護法（昭和25年法律第214号）に基づき，法人の施設整備に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する重要事項を調査審議する。
（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1) 学長が指名する理事，副学長又は学長特別補佐１人
(2) 各学部長
(3) 発掘調査に関連のある専門分野の教員若干人
(4) 経営企画部長，財務部長及び施設基盤部長
２　前項第３号の委員は，学長が任命する。
３　第１項第３号の委員の任期は，２年とし，再任を妨げない。ただし，委員に欠員を生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き，前条第１項第１号の委員をもって充てる。
２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。
３　委員長に事故があるときは，あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。
（委員以外の者の出席）
第５条　委員長が必要があると認めるときは，委員以外の者を出席させ，説明又は意見を聴くことができる。
（調査室）
第６条　委員会に，委員会が定める基本方針に基づき発掘調査を実施し，その結果について報告書を作成するため，埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）を置く。
２　調査室に関する要項は，委員会の議を経て，別に定める。
（事務）
第７条　委員会に関する事務は，施設基盤部施設企画課において処理する。
(雑則)
第８条　この規程に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，委員会が定める。

附則　この規程は，平成21年４月１日から施行する。

資料２　国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査室設置要項

第１　この要項は，国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会規程第６条第２項の規定に基づき，国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）に関し，必要な事項を定めるものとする。
第２　調査室は，国立大学法人愛媛大学（以下「本学」という。）の敷地内の施設整備に伴う埋蔵文化財の調査研究に関する次の各号に掲げる業務を行う。
(1) 実施計画の立案及び実施に関すること。
(2) 遺物の整理及び保管に関すること。
(3) 報告書の作成に関すること。
(4) 出土埋蔵文化財及び調査成果の公開及び利活用に関すること。
(5) 本学の学生及び教員への実践的な教育及び研究の支援に関すること。
(6) その他必要な事項
第３　調査室に，室長，調査員その他所要の職員を置く。
第４　調査室に，必要に応じて，埋蔵文化財の調査研究に関し，それぞれの専門分野から特別な知識及び技術について協力及び助言を得るため，専門員を置くことができる。
第５　室長，調査員及び専門員は，国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会（以下「委員会」という。）の議を経て，学長が任命する。
第６　室長，調査員及び専門員の任期は，委員会の議を経て，学長が定める。
第７　室長は，調査室に関する業務を掌理する。
２　調査員は，室長の指示の下，埋蔵文化財の調査研究に関する業務を行う。
第８　調査室に関する事務は，施設部において処理する。
第９　この要項に定めるもののほか，調査室の運営に関し必要な事項は，委員会が定める。
附則　この要項は，平成16年８月４日から施行する。

2　2010年度の埋蔵文化財調査室の事業

（1）調査と体制

埋蔵文化財調査室は、埋蔵文化財調査委員会の下、「国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査室設置要項」（資料２）に従い、発掘調査の実施計画の立案および実施、出土資料の整理・保管、報告書の作成と調査成果の公開・利活用、本学における教育・研究の支援業務を行っている。

埋蔵文化財調査室では、愛媛大学構内における掘削を伴う諸工事に際して、規模の大小に関わらず、工事内容による埋蔵文化財への影響を周辺における既往の調査などから判断し、それに応じた対応を行っている。2004年度、国立大学法人愛媛大学発足以降、愛媛県教育委員会・松山市教育委員会と協議を重ね、2007年度から、周知の埋蔵文化財包蔵地においては、文化財保護法第63条に基づき規模の大小にかかわらず、工事着手の60日前までに土木工事届を提出している。この土木工事届に対する通知に基づき、発掘調査･工事立会･慎重工事等の対応を行っている。

2010年度における埋蔵文化財に対する影響への確認と調査依頼は、21件あった（表２）。大学構内における新営工事や環境整備工事が多かった2009年度の52件に比べると半減した。

以上の調査依頼に対して、試掘調査や周辺における既往の調査成果から埋蔵文化財への影響を判断し、土木工事届等の所要の手続きを経た上で、４件について発掘調査を行った（表３）。この他に、2009年度から継続的に発掘調査を行っている御幸遺跡１次調査の１件がある。団地別では、城北団地で１件、樽味団地で３件、御幸団地で１件である。調査種別では、全面調査５件､工事立会７件である｡確認調査は実施しなかった。

（2）整理作業

年報ならびに報告書刊行に向けた整理作業として、文京遺跡41次調査、42次調査、御幸遺跡１次調査、樽味10次調査出土遺物の洗浄・注記作業を実施した。さらに文京遺跡39次調査出土で採集した土壌の水洗作業､水洗した土壌から微細遺物の選別作業を実施した。遺物実測作業として、文京遺跡21次調査、37次調査、41次調査､42次調査出土遺物の一部について実施した。

（3）印刷物の刊行

広報パンフレット『発掘愛媛大学』の残部が少なくなったため、2011年３月に10,000部を増刷した。2009年度に実施した全面調査の概要報告と小規模調査・立会調査などの報告をまとめた『埋蔵文化財調査室年報―2009年度―』（愛媛大学埋蔵文化財調査報告ＸＸⅡ）を刊行した。本書と併せて2009年度に刊行した『埋蔵文化財調査室年報―2008年度―』（愛媛大学埋蔵文化財調査報告ＸＸⅠ）』を、全国の大学・研究機関、文化庁、教育委員会・埋蔵文化財センター、博物館・資料館等に向けて発送作業を進めていた。しかし、2011年３月11日に、東日本大震災が発生したため、急遽、文化庁および西日本の諸機関等への発送のみに止め、東日本の諸機関等への発送は2011年度に延期することとした。

（4）広報、資料等の利活用

埋蔵文化財調査室では、これまで実施してきた構内遺跡出土の遺物や調査に関するデータなどを保管している。これらの調査室保管資料に関して、学内外から資料の公開や利用の要望が寄せられてきた。これらの要望に対して、埋蔵文化財調査室では資料の一部については、2009年11月に開館した愛媛大学ミュージアムにおいて常設展示し、広報パンフレットの配布やWebを利用した情報発信、公開講座の企画・実施などを通じて積極的に広報活動を進めている。

①埋蔵文化財調査室保管資料の活用状況

2010年度、埋蔵文化財調査室保管資料等に対する資料申請件数は20件であった（表４）。内訳は学内10件、学外10件である。2008年以降、資料申請件数は減少傾向である。これは、2009年11月以降、埋蔵文化財調査室保管資料の一部を愛媛大学ミュージアムにおいて常設展示していることも影響していると考えられる。常設展示品は、保管資料のごく一部であることから、今後も埋蔵文化財調査室保管資料に対する資料見学等の要望は続くと予想される。

②広報パンフレットの配布

埋蔵文化財調査室では、広報パンフレット『発掘愛媛大学』を作成し、希望者には随時配布している。ま

表２　2010年度の埋蔵文化財調査依頼・照会一覧

依頼			対応					
日付	発	工事名	意見書・回答文書		土木工事届	調査		
2月23日	農学部長	（樽味団地）愛媛大学附属高校畜舎新築工事	3月15日	周辺の既往調査から埋蔵文化財への影響が及ぶと判断。	3月23日	本格調査（樽味９次調査）	10月13日	－
4月5日	施設基盤部長	（城北団地）工学部４号館スロープ取設工事	4月6日	周辺の既往調査から埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	4月15日	－	－	－
4月7日	施設基盤部長	（城北団地）愛大ミューズL形側溝補修工事	4月8日	周辺の既往調査から埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	4月15日	工事立会	5月17日	写真１～４
4月15日	施設基盤部長	（城北団地）図書館周辺雨水配管修繕工事・課外活動第３共用施設汚水配管修繕工事	4月19日	既設掘削部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
5月11日	施設基盤部長	（樽味団地）農学部用水管路修繕工事	5月17日	既設掘削部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
6月10日	施設基盤部長	（樽味団地）植物工場等新営その他工事	6月11日	周辺の既往調査から埋蔵文化財への影響が及ぶと判断。	6月17日	本格調査（樽味10次調査）	８月27日～10月22日	－
６月	NTT西日本ー四国	（持田団地）中予エリアサービス総合工事（愛媛大学教育学部附属中学校電気通信設備設置のため）	－	－	－	工事立会	6月17日	写真４～11
7月26日	農学部長	（樽味団地）松山市道（桑原76号線）道路中心線協議に伴う道路後退整備工事	7月28日	周辺の既往調査から現地表面下へ掘削が及ばないことから埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
7月20日	施設基盤部長	（城北団地）駐車場整備工事	8月6日	周辺の既往調査から現地表面下への影響が及ばないと判断。	8月9日	工事立会	10月13日	写真12～13
8月19日	施設基盤部長	（樽味団地）植物工場等新営その他工事に伴う埋蔵文化財発掘調査他	8月20日	樽味６次調査区内の再掘削工事であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
9月3日	農学部長	（樽味団地）農学部カーゲート配線用配管埋設工事	9月10日	既設掘削部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
10月13日	施設基盤部長	（城北団地）第３体育館新営その他工事	10月21日	周辺の既往調査から埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	10月22日	工事立会	2010年12月22日、2011年1月6日・7日	写真14～18
10月15日	施設基盤部長	（城北団地）第３体育館新営その他工事	11月1日	周辺の既往調査から埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。	11月2日	本格調査（文京遺跡45次調査）	2011年３月22日～11月17日	－
10月18日	施設基盤部長	（樽味団地）植物工場等新営機械設備工事	10月25日	既設掘削部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
10月20日	施設基盤部長	（城北団地）理学部北側囲障改修工事	10月29日	周辺の既往調査から埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	11月2日	工事立会	2011年1月25日、2月1日・3日・7日・8日	写真19～24
10月27日	農学部長	（樽味団地）植物工場環境制御システム一式の据付調整	10月29日	周辺の既往調査から埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	11月2日	本格調査（樽味遺跡11次調査）	12月24日	－
11月11日	施設基盤部長	（樽味団地）植物工場等新営その他工事〔前回届け出の変更〕	11月17日	周辺の既往調査から埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	－	－	－
11月11日	施設基盤部長	（城北団地）教育学部石工室101ガス配管修繕工事	11月12日	既設掘削部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
11月25日	施設基盤部長	（樽味団地）植物工場等新営機械設備工事	11月30日	既設掘削部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
12月7日	施設基盤部長	（城北団地）理学部北側囲障改修工事	12月8日	既設掘削部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
12月14日	農学部長	（樽味団地）植物工場環境制御システム一式の据付調整工事	12月16日	植物工場新営その他工事に伴う基礎掘削工事内に含まれると判断。		工事立会	1月18日	写真25
1月24日	農学部長	（樽味団地）植物工場等新営その他工事（コンクリート舗装部分）	1月26日	周辺の既往調査から埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	2月1日	工事立会	3月17日	写真26～28

表３　2010年度発掘調査一覧

調査番号	団地	遺跡	工事名	調査種別	調査担当	調査期間	調査面積	出土遺物
00905	御幸	御幸１次	（御幸団地）学生寄宿舎新営その他工事	本格調査	田崎	2009/7/14～2011/2/9	2271㎡	48箱
01001	樽味	樽味９次	（樽味団地）附属高校畜舎新築工事	本格調査	三吉	10/13	8.2㎡	無
01002	樽味	樽味10次	（樽味団地）植物工場新営その他工事	本格調査	三吉	８/27～10/13	652.8㎡	２箱
01004	樽味	樽味11次	（樽味団地）植物工場環境制御システム一式の据付調整工事	本格調査	三吉	12/24	8.43㎡	無
01005	城北	文京45次	（城北団地）第３体育館新営その他工事	本格調査	三吉・田崎	2011/3/22～11/17	1436.7㎡	65箱

写真１　（城北団地）愛大ミューズL形側溝補修工事立会

写真２　（城北団地）愛大ミューズL形側溝補修工事立会

写真３　（城北団地）愛大ミューズL形側溝補修工事立会

写真４（城北団地）愛大ミューズL形側溝補修工事立会

写真５（持田団地）中予エリアサービス総合工事立会

写真６（持田団地）中予エリアサービス総合工事立会

写真７（持田団地）中予エリアサービス総合工事立会

写真８（持田団地）中予エリアサービス総合工事立会

写真９　（持田団地）中予エリアサービス総合工事立会

写真10　（持田団地）中予エリアサービス総合工事立会

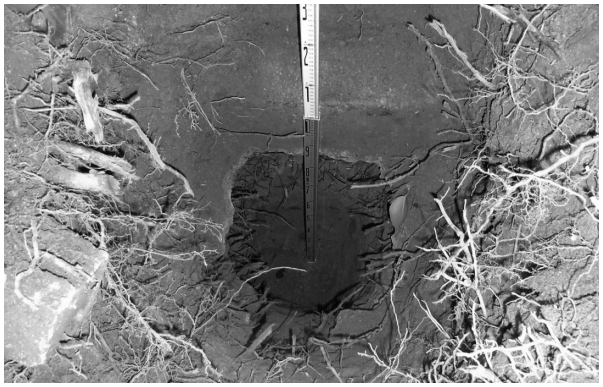


写真11　（持田団地）中予エリアサービス総合工事立会

写真12　（城北団地）駐車場整備工事立会

写真13　（城北団地）駐車場整備工事立会

写真14　（城北団地）第３体育館新営その他工事立会

写真15　（城北団地）第３体育館新営その他工事立会

写真16　（城北団地）第３体育館新営その他工事立会

写真17　（城北団地）第３体育館新営その他工事立会

写真18　（城北団地）第３体育館新営その他工事立会

写真19（城北団地）理学部北側囲障改修工事立会

写真20　（城北団地）理学部北側囲障改修工事立会

写真21　（城北団地）理学部北側囲障改修工事立会

写真22　（城北団地）理学部北側囲障改修工事立会

写真23　（城北団地）理学部北側囲障改修工事立会

写真24　（城北団地）理学部北側囲障改修工事立会

写真25　（樽味団地）植物工場環境制御システム一式の据付調査工事立会

写真26　（樽味団地）植物工場等新営その他工事立会

写真27　（樽味団地）植物工場等新営その他工事立会

写真28　（樽味団地）植物工場等新営その他工事立会

写真29　公開講座の様子（1）

写真30　公開講座の様子（2）

表４　2010年度調査室・調査室資料利用一覧

	日　時	利　用　者	利　用　資　料	目　的	利用内容
1	2010/04/15	愛媛大学法文学部考古学研究室同窓会	文京遺跡発掘調査写真	印刷物掲載	借用
2	2010/04/27	松野町教育委員会職員	刊行書籍	研究	書籍希望
3	2010/04/27	西条市教育委員会職員	刊行書籍	研究	複写
4	2010/05/12	愛媛県埋蔵文化財調査センター職員	2009年度発掘調査および刊行図書データ	研究	照会
5	2010/06/16	愛媛大学ミュージアム教員	文京遺跡出土石器	教育	借用
6	2010/06/22	愛媛大学ミュージアム教員	旧歴史学研究会保管資料	教育	借用
7	2010/06/30	東アジア古代鉄文化研究センター教員	城北団地構内基準点	教育	照会
8	2010/07/09	東アジア古代鉄文化研究センター教員	測量用機器一式	教育	借用
9	2010/08/26	愛媛大学ミュージアム教員	文京遺跡出土遺物	教育	借用
10	2010/09/24	愛媛県埋蔵文化財調査センター職員	文京遺跡出土瓦器碗	研究	熟覧
11	2010/10/01	南海放送サービス(株)職員	文京遺跡調査写真・出土遺物写真	DVD作成	借用
12	2010/11/11	東アジア古代鉄文化研究センター教員	文京遺跡・樫味遺跡出土遺物	公開講座	借用
13	2010/11/24	熊本大学文学部教員	施設見学	その他	施設見学
14	2010/12/09	徳島大学埋蔵文化財調査室教員	施設見学・刊行書籍	研究	施設見学・書籍希望
15	2010/12/12	山梨県立博物館学芸員	文京遺跡出土縄文土器	研究	写真撮影・レプリカ作成
16	2011/01/11	愛媛大学法文学部人文学科学生	文京遺跡出土石器・所蔵図書	研究	熟覧・複写
17	2011/01/11	忠清北道文化財研究院職員	刊行書籍	研究	書籍希望
18	2011/01/24	愛媛大学ミュージアム教員	旧歴史学研究会保管資料	教育	借用
19	2011/03/17	愛媛大学法文学部人文学科学生	刊行書籍	研究	書籍希望
20	2011/03/25	滋賀県立大学教員・学生	調査室保管資料	研究	熟覧・写真撮影

た、2010年４月には、新入学生ならびに新規採用職員を対象として約2400部を配布した。

③公開講座の開催（写真29・30）

平成22年度愛媛大学公開講座『文京遺跡から学ぶ弥生時代（６）』を以下の日程で開催した。

10月９日（土）田崎博之「縄文・弥生の文京遺跡」
10月23日（土）三吉秀充「古墳時代の文京集落」
10月30日（土）田崎博之「新聞記事に見る文京遺跡の研究の歴史」
11月13日（土）佐々木正治（東アジア古代鉄文化研究センター）「文京遺跡の鉄」
11月20日（土）田崎博之・三吉秀充・佐々木正治「討論」

講座では、愛媛大学城北キャンパス内の地下に眠る文京遺跡を始めとした構内遺跡の発掘調査地点の見学や実際に出土した土器や鉄製品などの実物資料を利用した。年度末には平成22年度愛媛大学公開講座記録集『文京遺跡から学ぶ弥生時代（６）』を刊行し、受講生ならびに関係機関に配布した。

④Webを利用した広報活動

埋蔵文化財調査室では、2004年度にホームページを開設し、発掘調査や情報発信を行っている。2010年度には、発掘調査速報（調査画像や調査動画）や公開講座情報などを随時更新した。（愛媛大学埋蔵文化財調査室ホームページアドレス　http://www.ehime-u.ac.jp/~maibun/index.htm　内の「2010年度のTOPICS」を参照）

⑤愛媛大学ミュージアム展示品関連事業

埋蔵文化財調査室は、2009年11月に開館した愛媛大学ミュージアム「人間の営み」ゾーンにおいて、文京遺跡を中心とした構内遺跡出土資料の展示を行っている。2010年度には、展示品の一部に関して修復作業を行った。

３　愛媛大学構内における埋蔵文化財包蔵地の見直しについて

これまで、埋蔵文化財調査室では、『愛媛大学埋蔵文化財調査室年報』で、愛媛大学の各団地における埋蔵文化財の分布状況を報告してきたが、松山市教育委員会による埋蔵文化財包蔵地外でも遺跡が発見された事例が含まれている。埋蔵文化財調査室では、愛媛大学構内における地盤掘削を伴う諸工事に際して、規模の大小に関わらず、工事内容による埋蔵文化財への影響を周辺における既往の調査などから判断し、それに応じた対応を行っており、周知の埋蔵文化財包蔵地外においても、掘削工事などを行う関係部局に遺跡の存

在を周知した上で、発掘調査・工事立会などの必要な対応を行ってきていた。

さて、2007年12月、学生寄宿舎が所在する御幸団地の整備計画が報告され、埋蔵文化財調査室は、試掘調査（調査番号：00715）や周辺における既往の調査から、周知の埋蔵文化財包蔵地ではないものの、発掘調査等の対応が必要であると判断した。2009年５月13日、愛媛県教育委員会により「御幸遺物包含地」として、御幸団地内が周知の埋蔵文化財包蔵地との通知があった。これに伴い、工事計画と調査計画の大幅な変更を伴うこととなった。

文化財保護法では、新たに遺跡を発見した際には、愛媛県教育委員会ならびに松山市教育委員会への届けが必要とされているが、愛媛大学では、その対応をこれまで講じてこなかった。そこで、2009年度第１回埋蔵文化財調査委員会において、現時点における愛媛大学埋蔵文化財調査室が把握しているデータに基づき、「周知の埋蔵文化財包蔵地」範囲を見直すため、愛媛県教育委員会および松山市教育委員会へ提出することとなった。2009年12月18日、愛媛大学埋蔵文化財調査室にて、愛媛県教育委員会文化財保護課、松山市教育委員会文化課、愛媛大学埋蔵文化財調査室、愛媛大学施設基盤部によって、大学構内（①城北団地（樋又地区）、②持田団地、③樽味団地、④御幸団地、⑤山越団地、⑥東長戸団地、⑦北吉井団地、⑧鷹子団地、⑨北条団地）の発掘調査データの確認作業を行った。

その結果、2010年１月、①城北団地（樋又地区）、②持田団地、③樽味団地、⑤山越団地、⑥東長戸団地、⑦北吉井団地について、埋蔵文化財包蔵地調査カードを作成し松山市教育委員会へ提出することが求められた。これを受けて、愛媛大学埋蔵文化財調査室で埋蔵文化財包蔵地調査カードを作成し、埋蔵文化財調査委員会、役員会の了承を経て、2010年６月、松山市教育委員会へ提出した。同年10月、松山市教育委員会を通じて愛媛県教育委員会から「周知の埋蔵文化財包蔵地」の取扱いについて通知があった。団地ごとの見直し結果は、以下の通りであるが、同時に、今回埋蔵文化財包蔵地とされなかった範囲は、現地点における調査結果において判断できなかったものであり、埋蔵文化財が存在しないということではないことから、埋蔵文化財保護のため試掘調査や分布調査等について、主体的に実施するよう求められている。

①城北団地（樋又地区）（松山市道後樋又10番）（図１・６）

城北団地北東部の道後樋又10番構内には大学本部などが所在する。2000年度以降実施してきた試掘調査や工事立会で、弥生後期の甕や、中世の土師器・備前焼摺鉢・白磁碗などが出土している。縄文前期から中世に及ぶ複合遺跡としての文京遺跡の広がりを確認でき、樋又地区南部を道後樋又遺跡として周知の埋蔵文化財包蔵地とする見直しが行われた。

②持田団地（松山市持田町1丁目5番22号）（図２・７）

持田団地には教育学部附属中・小・特別支援学校ならびに附属幼稚園が所在する。周辺では、団地北東側で松山環状線（岩崎）道路建設に伴う発掘調査が行われ、Ⅰ-１～４区では15世紀後半を前後する水田遺構と畠遺構が発見されている。団地構内でも、2006年度の附属中学校校舎新営工事に伴う１次調査では近世、2007年度の附属小学校本館等耐震改修工事に伴う２次調査では中世前半期に遡る可能性が高い水田及び水路が発見されている。水田層の下層に堆積した砂礫層からは弥生土器、古墳後期～古代前半の土師器や須恵器が出土している。今回の埋蔵文化財包蔵地の見直しでは、持田団地北半分が周知の埋蔵文化財包蔵地となると同時に、これまで持田団地構内遺跡としていた遺跡名は持田遺跡とされた。

③樽味団地（松山市樽味3丁目5番7号）（図３・８）

樽味団地には農学部ならびに附属研究施設、附属高等学校等が所在する。団地西部は、樽味遺物包含地として周知の埋蔵文化財包蔵地とされてきたが、1987年の１次調査以降、樽味遺跡として８次にわたる全面調査と小規模な試掘・立会調査が実施され、弥生前期から中世に及ぶ集落遺跡であることが明らかにされてきた。

具体的には、団地西半部において中世（14～16世紀）の方形区画を有する集落が面的に広がる。北西部では、弥生前期の集落と古墳後期の集落も確認され、後者は団地周辺の樽味立添遺跡や樽味高木遺跡と一連の遺跡の可能性が高い。一方、団地南部では、古代末から中世（10～14世紀）に埋没する自然河道が発見され、附属高等学校の所在する団地東部は、必ずしも遺跡の広がりは明確でない。また、４次調査で古代（８世紀）に埋没する自然河道や、古代末～中世（10～12世紀）の遺物包含層が確認され、団地西半部とは若干異なる時代の遺跡が展開している。こうした調査結果から、

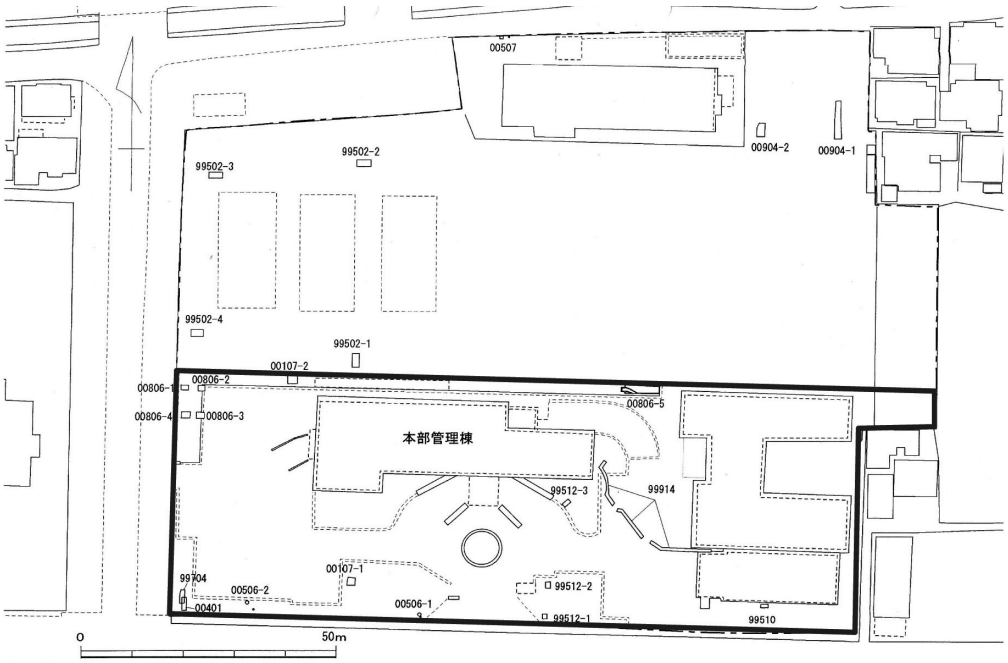


図１　0202道後樋又遺跡（松山市教育委員会よりデータ提供）

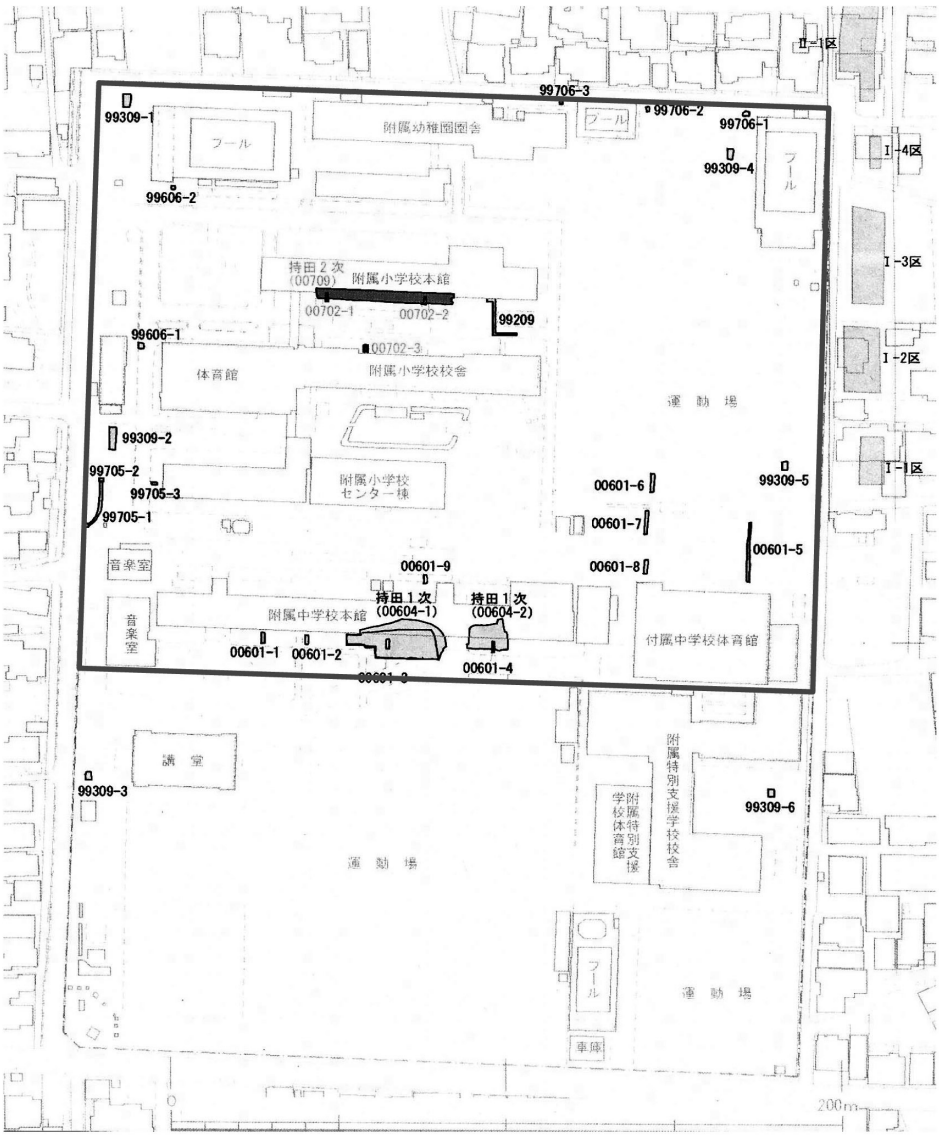


図２　0209持田遺跡（松山市教育委員会よりデータ提供）

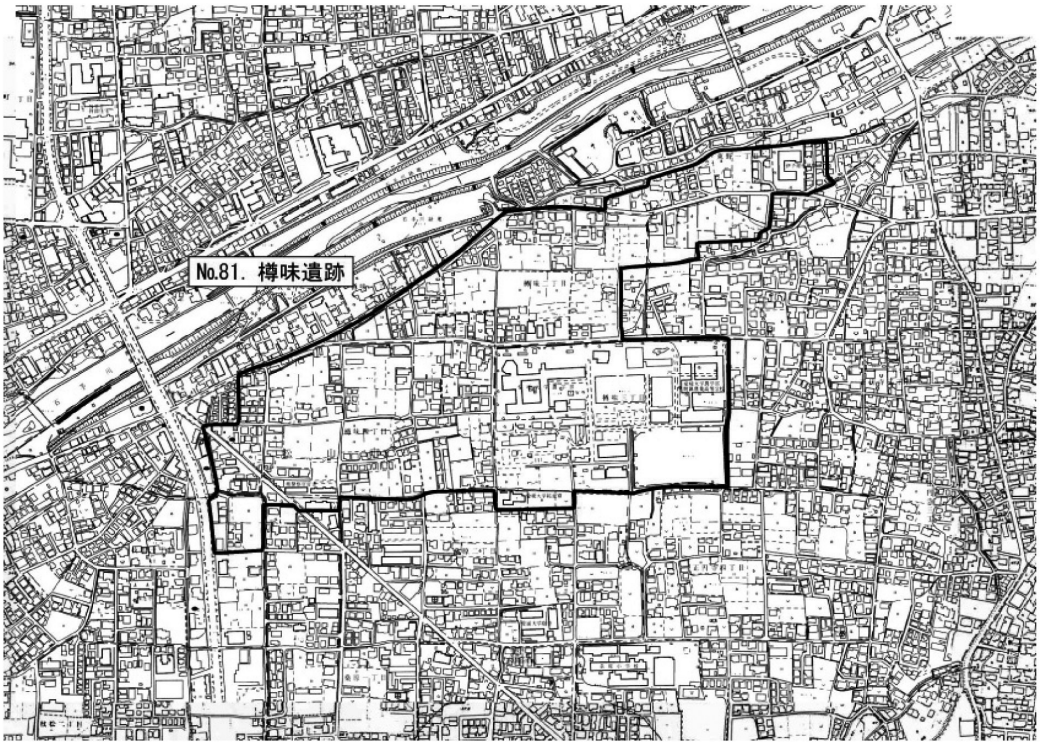


図３　0081樽味遺跡（松山市教育委員会よりデータ提供）

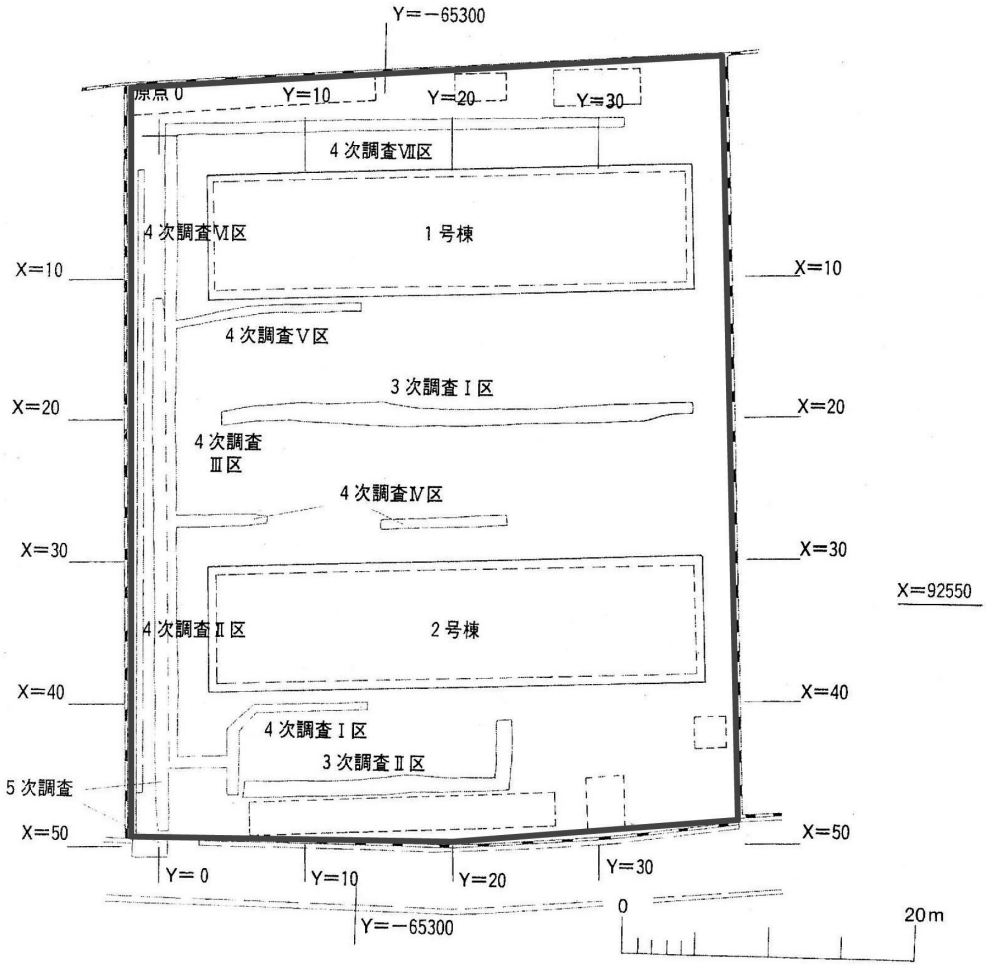


図４　0157-２桑原西稲葉遺跡（松山市教育委員会よりデータ提供）

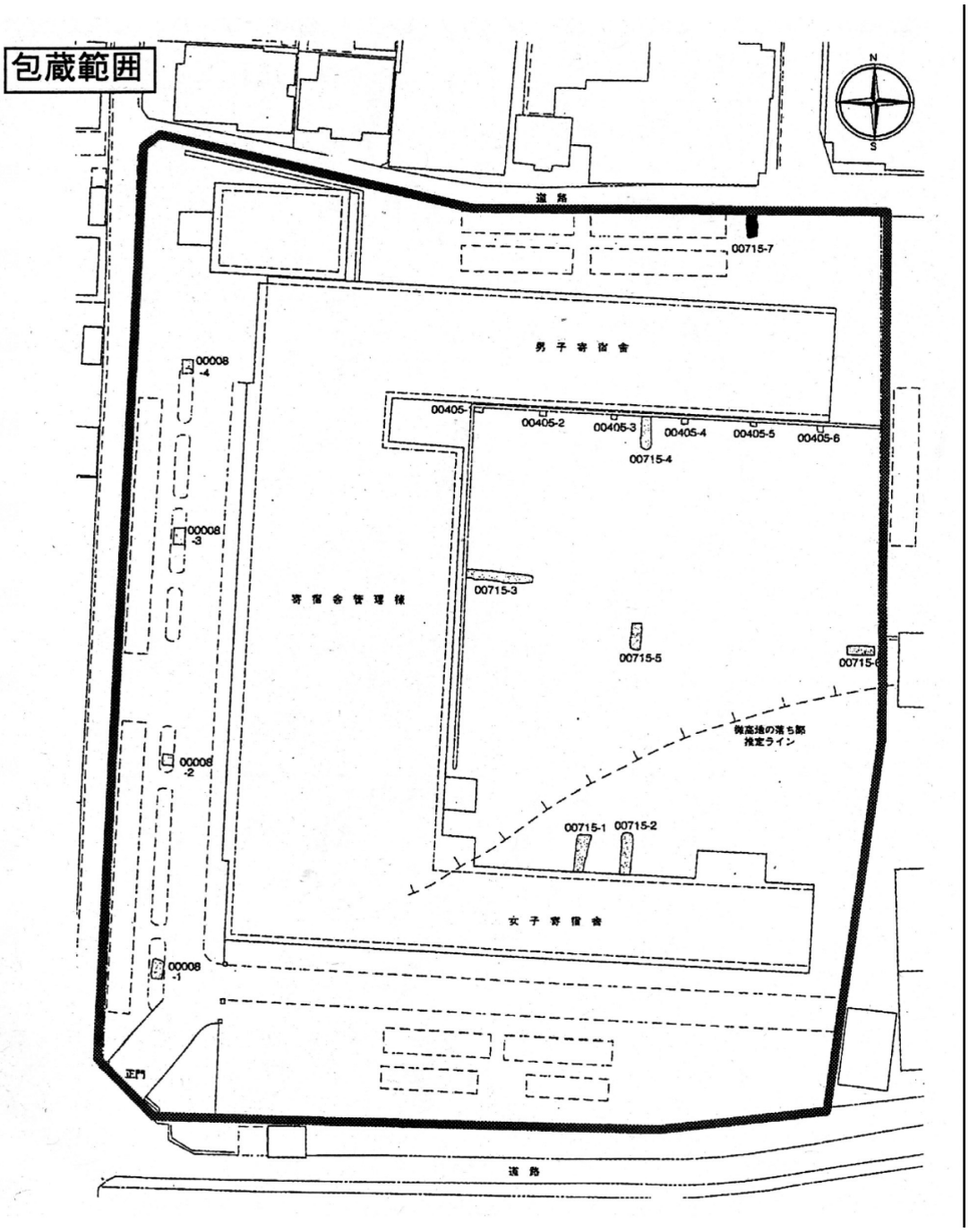


図５　0207御幸遺跡（松山市教育委員会よりデータ提供）

樽味団地全体が周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれることとなった。

④御幸団地（松山市御幸町2丁目3番15号）（図５）

学生寄宿舎が所在する御幸団地は、2009年５月、周知の埋蔵文化財包蔵地とされ、「御幸遺物包含地」とされた。2009年７月に始まる１次調査では、本書で概要を報告するように、鎌倉時代後半期～室町時代、奈良時代、古墳時代、弥生時代、そして縄文時代晩期～後期の遺構が出土し、長期にわたる複合遺跡であることを把握された。2010年１月、遺跡の種別・名称変更に伴い「御幸遺跡」とされることとなった。

⑤山越団地（松山市山越4丁目11番10号）（図９）

大学課外活動施設の野球場・馬場・サッカーグラウンド等の施設がある。1992年度と2002年度の確認調査によって、団地が丘陵部裾からのびる段丘の落ち際に位置することが確認されている。団地北東隅の旧河道の落ち際からは、ウメやカシ類の炭化種実や加工木などが縄文晩期中頃の遺物とともに出土している。ま

た、団地西半部でも、古墳後期の自然河道が確認されている。しかし、現地点における調査結果では、埋蔵文化財包蔵地であるかどうか判断できない旨が通知された。

⑥東長戸団地（松山市東長戸4丁目3番１号）

職員宿舎が所在する。1994年度の立会調査によって、団地東半部を中心として遺跡が営まれている可能性が指摘できる。これ以外は、埋蔵文化財の有無についてデータがなく、今回の見直しでは、埋蔵文化財包蔵地であるかどうか判断できない旨が通知された。

⑦北吉井団地（松山市桑原2丁目9番8号）（図４・８）

北吉井団地には職員宿舎が所在する。1994年に東長戸他環境整備（駐車場整備・配管設置）工事による立会調査、1997年に北吉井宿舎屋外排水管改修工事による本格調査と北吉井宿舎屋外ガス管改修工事による立会調査が行われている。その結果、古墳中期～後期（５～７世紀初）、古代（10世紀）の集落遺跡が団地全面に展開することが確認され、既に桑原西稲葉遺跡３～５次調査として報告している。以上の発掘調査の結果から、桑原西稲葉遺跡として団地全体が周知の埋蔵文化財包蔵地とされた。

⑧鷹子団地（松山市鷹子町40番）

鷹子団地には国際交流会館が所在する。1987年に国際交流会館建設に先立って、鷹子遺跡１次調査が行われ、弥生時代中期後葉、古代（７～８世紀）、中世（13～14世紀）の遺構･遺物が確認された。この調査によって、団地内の大半を調査したことになるが、建物周辺には部分的に遺跡が残存する。既に埋蔵文化財包蔵地に含まれている。

⑨北条団地（松山市（旧北条市）八反地字伊利甲498番地）

農学部附属農場が所在し、団地の一部は、萩尾古墳群あるいは八竹山遺跡として周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれる。しかし、他の調査実績等がないため、今回の見直しの対象から除外する旨、通知された。

（三吉）

図６　城北団地調査地点位置図（縮尺1／2000）

図６裏

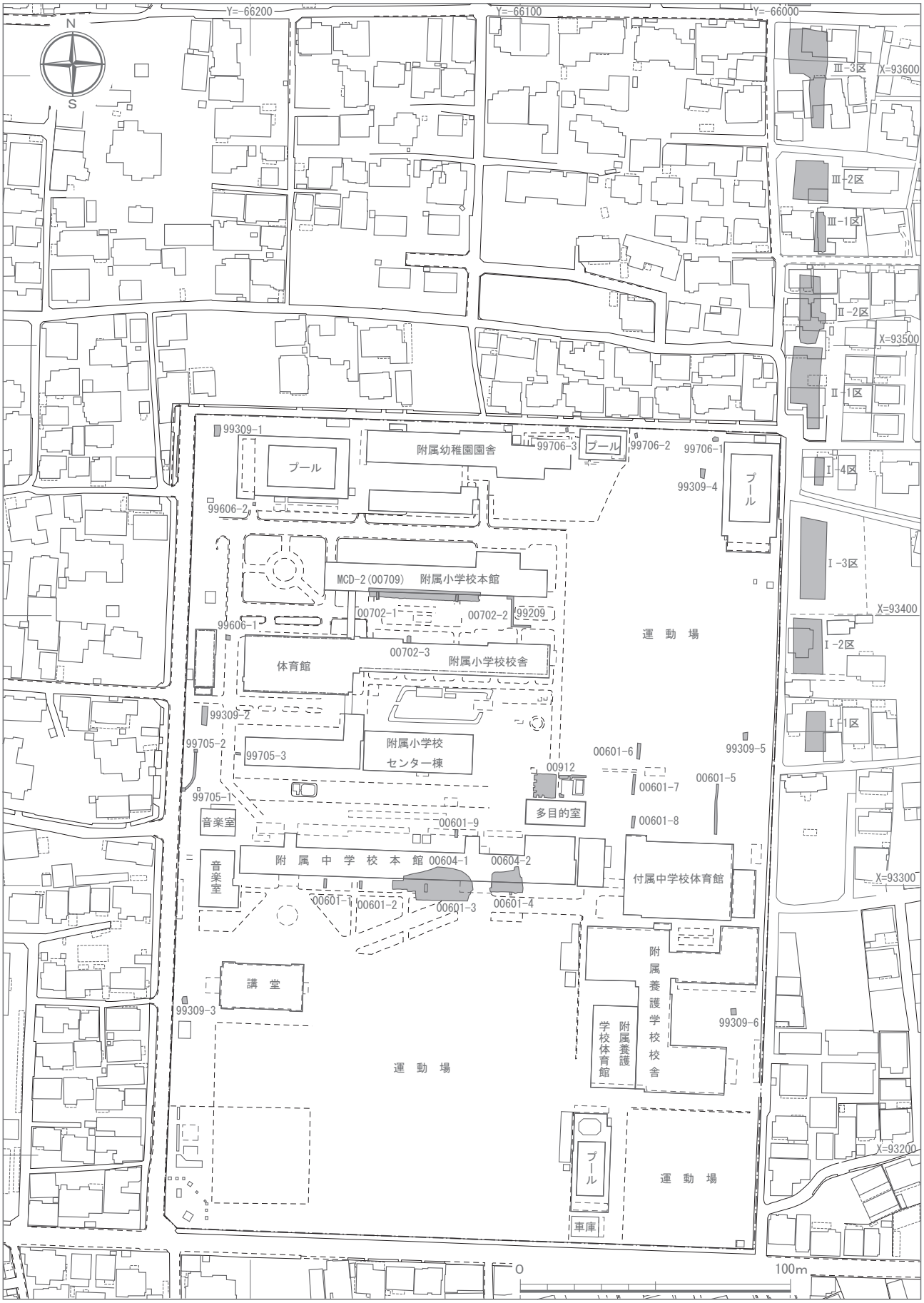


図７　持田団地調査地点位置図（縮尺1／2000）

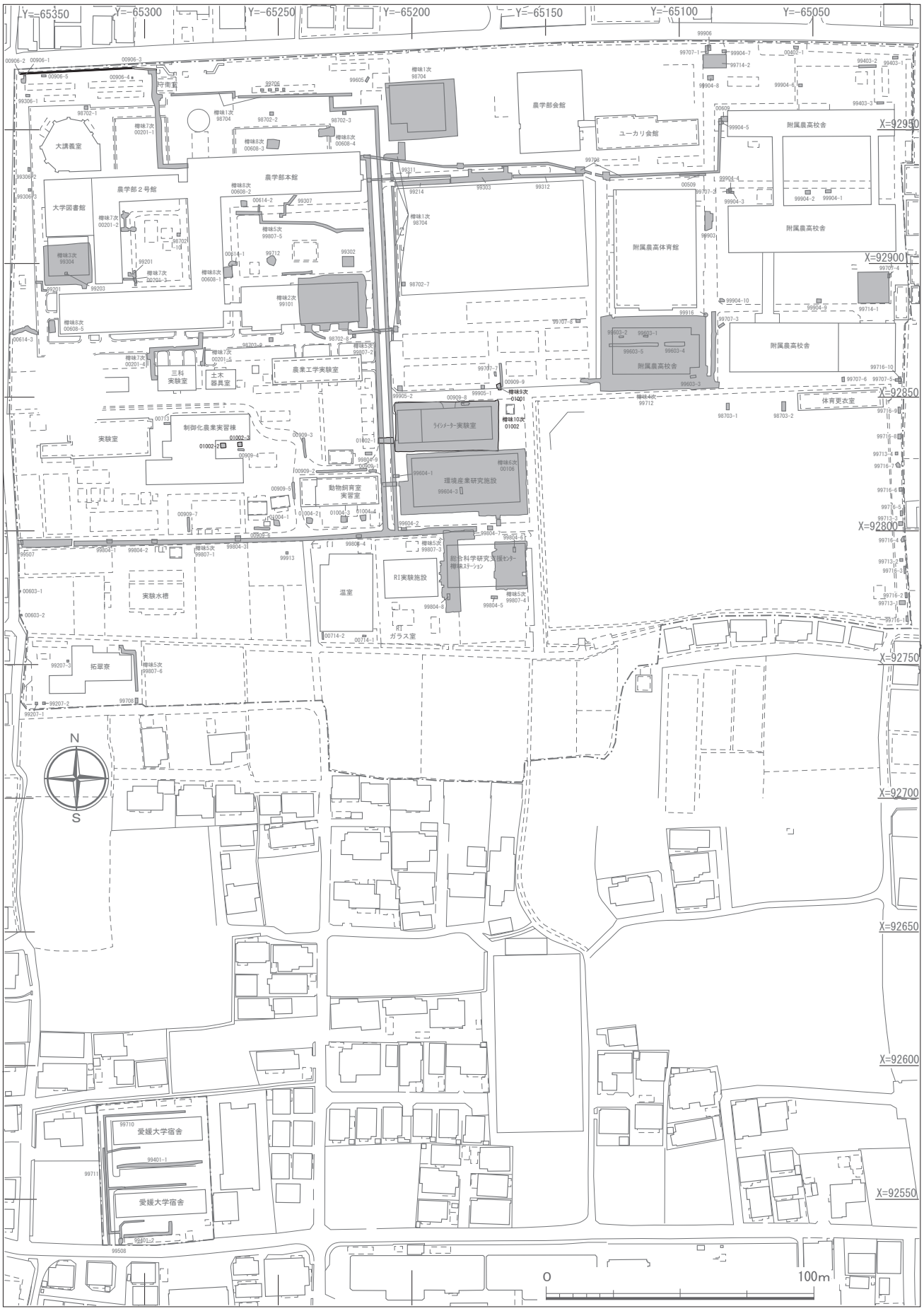


図８　樽味・北吉井調査地点位置図（縮尺1／2000）

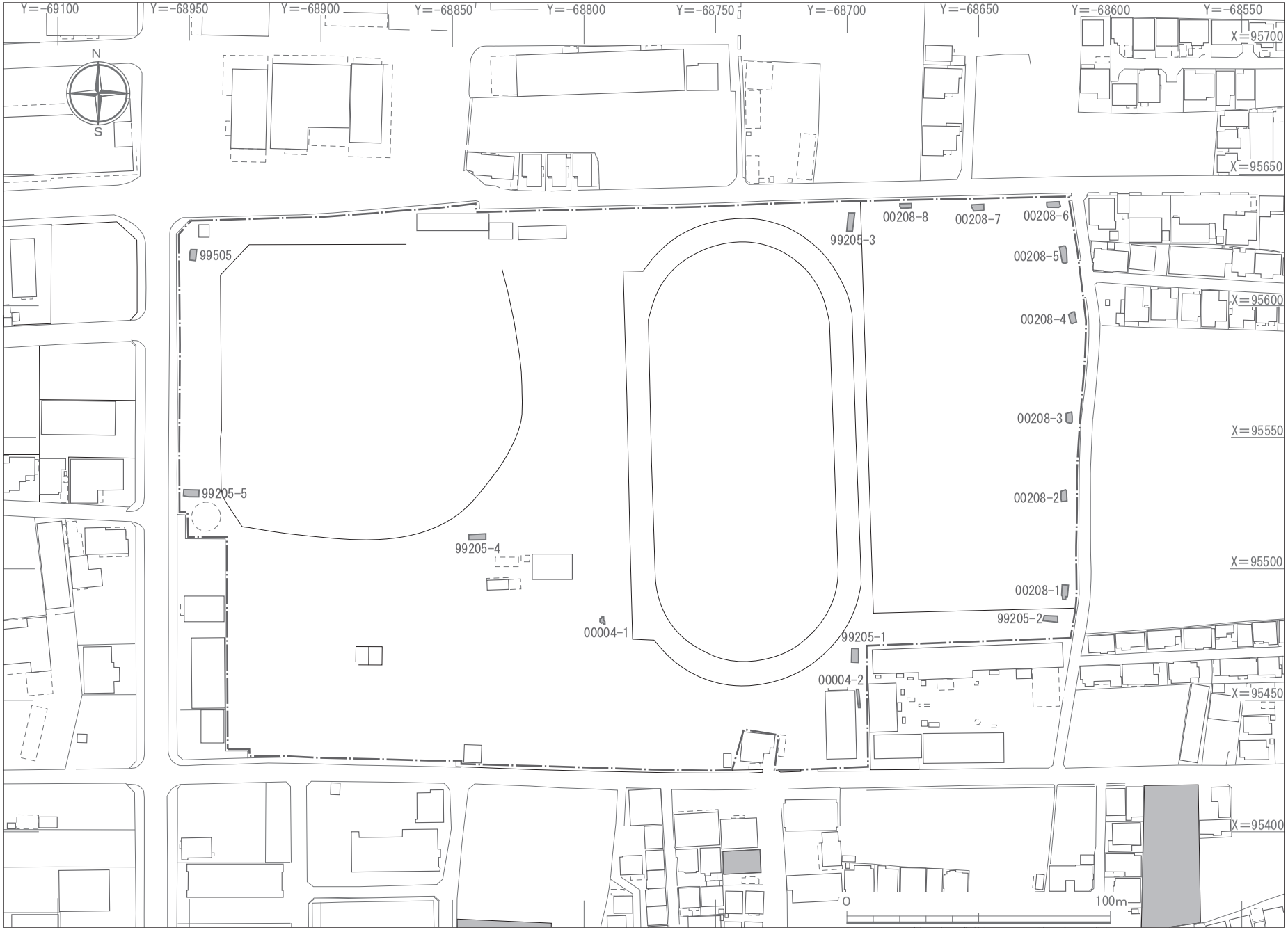


図９　山越団地調査地点位置図（縮尺1／2000）

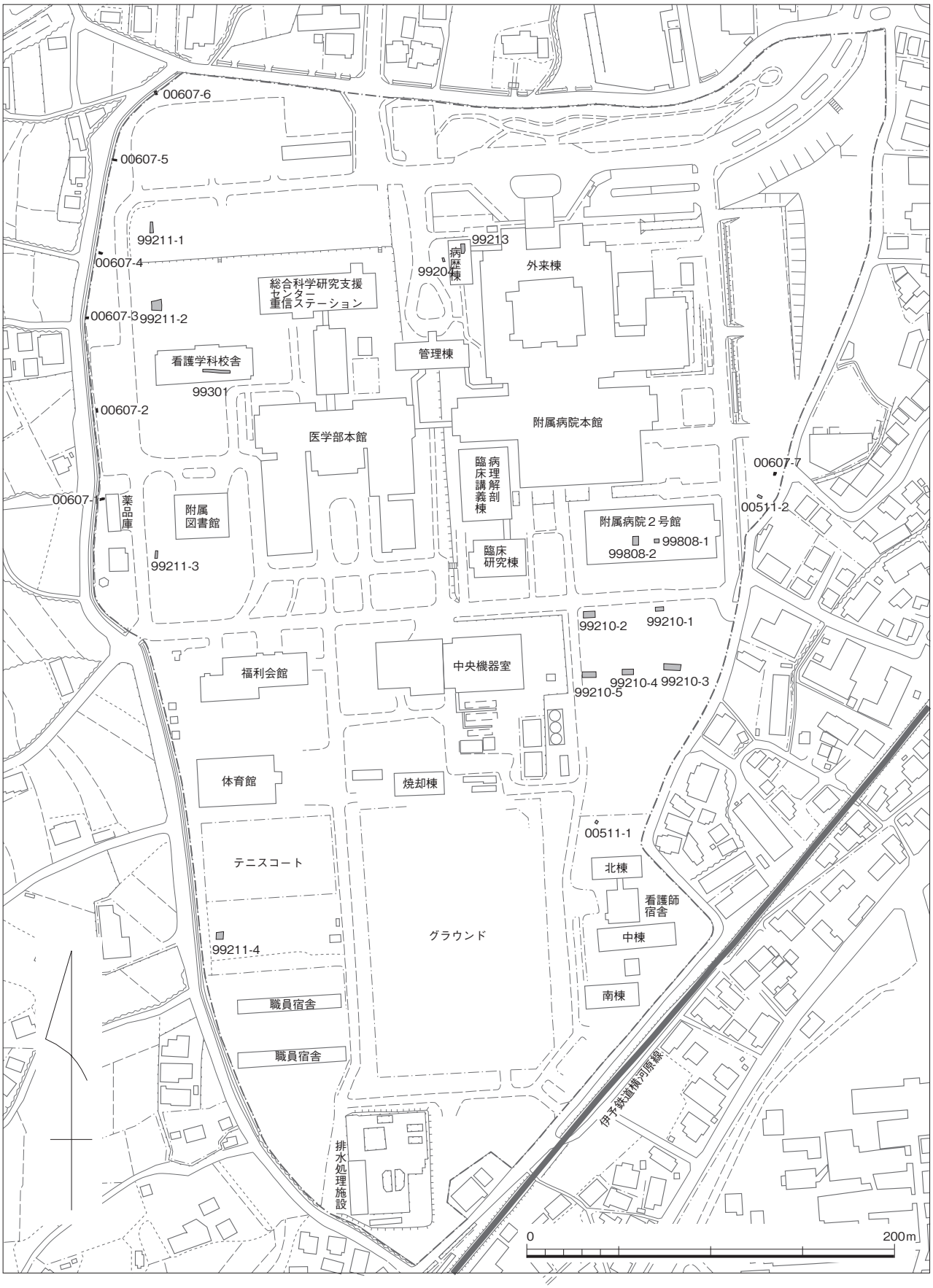


図10　重信団地調査地点位置図（縮尺1／3000）

Ⅱ　2010年度の発掘調査

2010年度は、2009年度に着手した00905調査（御幸遺跡１次調査２区～９区）、01001調査（樽味遺跡９次調査）、01002調査（樽味遺跡10次調査）、01004調査（樽味遺跡11次調査）、01005調査（文京遺跡45次調査）の発掘調査を行った。01005調査（文京遺跡45次調査）は、第３体育館新営その他工事に伴い、2011年３月22日からバックホーによる表土掘り下げ作業を開始した。調査対象面積1436.7㎡におよぶものであり、発掘調査は2011年11月17日まで継続している。この01005調査の概要報告は『埋蔵文化財調査室年報―2011年度―』において報告を予定しており、本年報では00905調査（御幸遺跡１次調査２区～９区）、01001調査（樽味遺跡９次調査）、01002調査（樽味遺跡10次調査）、01004調査（樽味遺跡11次調査）について概要報告を行う。

00905　（御幸団地）学生寄宿舎新営その他工事に伴う調査（御幸遺跡１次調査２～９区）

調 査 地 点　松山市御幸２丁目３番１号
　　愛媛大学御幸団地構内
調 査 面 積　2,271㎡
調 査 期 間　2009年７月14日～2011年２月８日
調査の種別　本格調査
調 査 担 当　田崎博之
依 頼 文 書　施設基盤部長発事務連絡
　　（平成21年５月27日付）

１　調査にいたる経緯

2009年７月14日に開始した御幸遺跡１次調査は、同年10月5日に旧中庭の新営建物部分にあたる１区の発掘調査が終了したが、つづいて2010年３月９日から旧女子寮建物耐震補強工事に伴う２～４区の調査、一部併行して４月13日から旧男子寮建物耐震補強工事に伴う５・６区の調査、６月１日からは旧共通管理棟部分の７区、そして11月4日からは御幸団地南・東・北側管路部分の８区、2011年１月17日からは団地西側管路部分に当たる９区の発掘調査を実施し、１次調査が完全に終了したのは2011年２月８日であった。2年間におよぶ調査期間中、工事日程に合わせて調査を同時併行することもあり、慌ただしい調査となった。

１～９区の中で、１区は既に2009年度の年報で概要を報告しており、本書では2010年度に調査を行った２～９区の調査概要を報告する。なお、調査区と調査期間は図11と表５の通りである。

表５　御幸遺跡１次調査の調査区割りと調査期間

調　査　区		調査面積	表　土　剥　ぎ	遺構・遺物の調査
１区	中庭部分	1,102㎡	2009年７月14日～７月31日	８月３日～10月5日
２区	旧女子寮建物南側	125㎡	2010年３月９日～３月17日、４月５日、４月12日	３月17日～４月19日
３区	旧女子寮建物北側	12.5㎡	2010年４月２日	４月５日～４月23日
４区	旧女子寮建物北側	40㎡	2010年４月５日～４月７日	４月８日～５月１日
５区	旧男子寮建物南側	155㎡	2010年４月13日～４月21日	４月21日～６月４日
６区	旧男子寮建物北側	270㎡	2010年５月７日～５月18日	５月21日～７月19日
７区	旧共通管理棟	400㎡	2010年６月１日～６月28日	７月20日～８月４日
８区	団地南・東・北側管路部分	87.6㎡	2010年11月24日～12月６日	
９区	団地西側管路部分	78.9㎡	2011年１月17日～２月８日	
合計調査面積		2,271㎡		

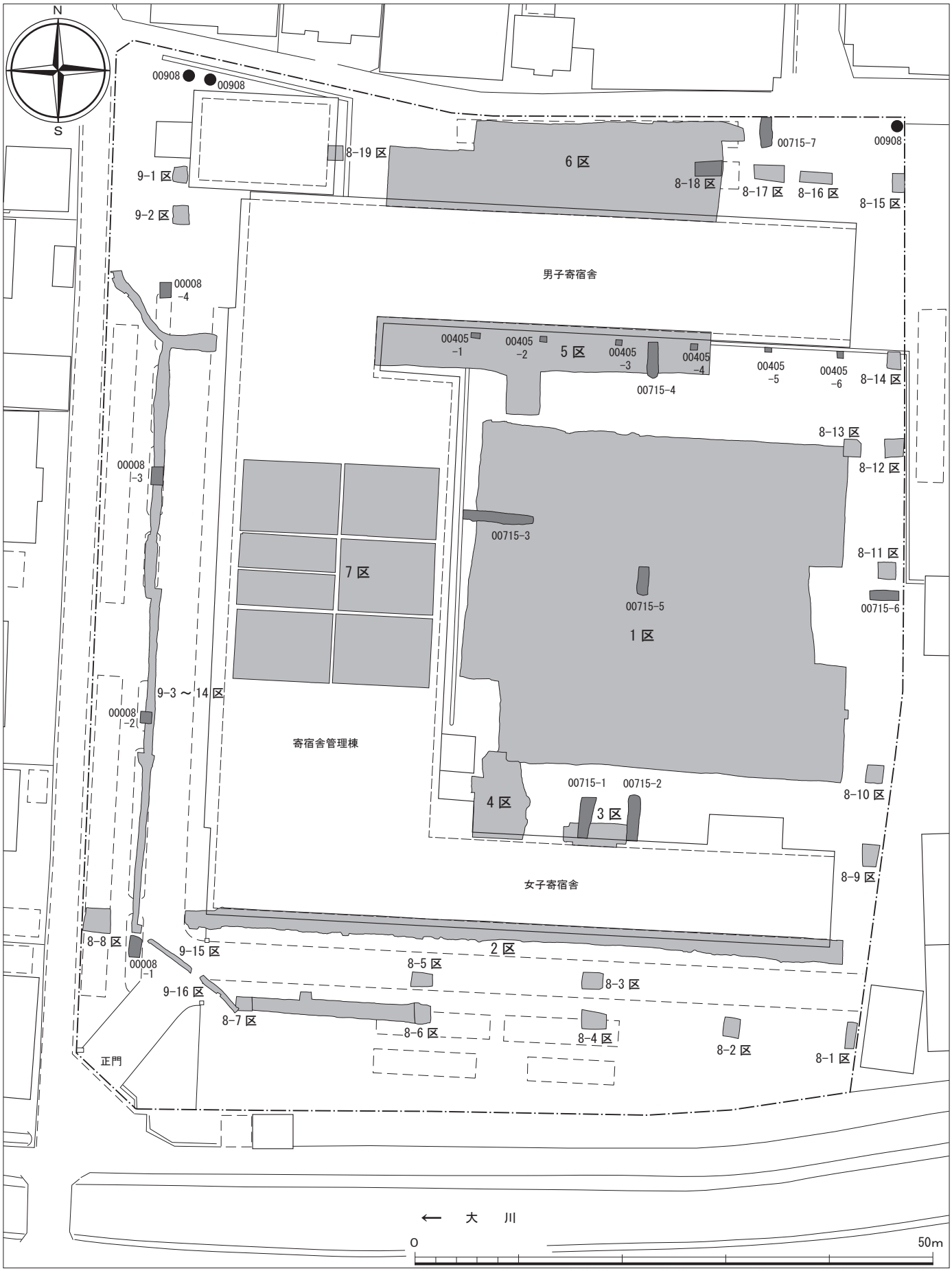


図11　00905調査（御幸遺跡１次）調査区配置図（縮尺1 ／ 500）

２　調査の記録

（1）御幸遺跡の基本層序

御幸遺跡における基本層序は、上位からⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ層から構成される。

Ⅰ層：瓦礫が混じる造成土。

Ⅱ層：団地全域に広がる中世～近現代の水田層と洪水でもたらされた砂礫層から構成される。Ⅱ-１～Ⅱ-８層に分層できる。御幸学生寄宿舎は旧愛媛県青年師範学校跡地西半部を使用しているが、愛媛県青年師範学校も旧御幸尋常高等小学校の跡地を利用している。Ⅱ-１・２層は、それ以前の近世の水田層である。砂礫混じりの褐灰色のシルト土～砂質シルト土で、炭化物片が多く混じる。Ⅱ-３層は小礫混じりのシルト土の水田層で、８-12区では完形の室町時代の土師器坏、８-６・８区間の管路部分では土師器の三足付き土鍋などが出土している。室町時代の水田層である。団地南半部の２区や８-２～７区、３・４区では、Ⅱ-３層直下に灰白色砂礫層のⅡ-４層がみられる。洪水によってもたらされた砂礫層である。ただし、Ⅱ-４層は上層のⅡ-３層の水田耕作によって削られ、１区では南壁西半部でレンズ状に残るのみである。Ⅱ-５層は、やや黒みをおびた褐灰色の砂礫混じりのシルト～粘質シルト土の水田層である。１区南壁西半部から鎌倉時代後半期の土師器坏の破片が出土している。Ⅱ-６層は、褐灰色の砂礫層で、１区より南側の２～４区及び８-２～８区にひろがる。Ⅱ-４層と同じく、洪水によって堆積したものである。Ⅱ-７層は、団地南西部を中心として広がる小礫混じりの砂質シルト質土の水田層である。上層のⅡ-６層の出土遺物から、鎌倉時代後半期以前の水田層と考えることができる。Ⅱ-８層は、団地東半部に分布する褐灰色～黄灰色の砂礫土である。細砂・粗砂を主体とし、土壌化が進み攪拌痕跡も認められ畠耕作土と考えた。

Ⅲ層：団地西半部を中心として分布する黒褐色～暗褐色のシルト土層で、径２㎜前後の小礫～粗砂が多く混じる。最上部の灰色みをおびた灰褐色のⅢ-１層、黒みがつよい黒褐色～暗褐色のⅢ-２層、下部のⅣ層への漸移層にあたる淡い暗褐色のⅢ-３層に分層できる。既に概要を報告した１区では、上層のⅡ層の水田開発に伴ってⅢ-１・２層の大部分が削られ、Ⅲ-３層だけが残されている。

Ⅳ層：上部は明黄褐色シルトで、下部ほど砂礫が多く混じり、オリーブ色や灰白色～灰色の砂礫層に変化する。最上部の明黄褐色シルトであるⅣ-１層、細砂・粗砂を主体とするⅣ-２～Ⅳ-４層、径3～10cmの扁平な円礫が多く混じるⅣ-５層に分層できる。１区では、シルト部分を一部掘り下げたところ、縄文土器や炭化物の細片が出土したが、明確な遺構の掘り形は確認できなかった。また、６区ではⅣ-２層上面でⅣ-１層と類似する埋土をもつ小穴が出土している。

（2）２区の調査

２区は団地南部の旧女子寮建物南側沿いの調査区である（写真31）。２区東端から表土剥ぎを始めたが、建物建設時の余掘り部分が調査区幅のほとんどを占めていること、Ⅲ層がやや淡い色調であったことから、Ⅳ層の上部まで掘り下げてしまった。そのため、一部の溝や小穴は調査区壁面での確認にとどまっている。２区東半部では、Ⅲ層上面で重機による表土剥ぎをとどめ、Ⅲ層を徐々に掘り下げることでSD-１～３、SP-５・７・８・９・10を確認できた。さらに、２区西半部では、鎌倉時代後半期の遺物を包含する洪水砂礫層であるⅡ-４層（写真32・35）で比較的厚く覆われたⅡ-５層の水田層を確認できた。そこで、重機による表土剥ぎをⅡ層中位でとどめ、その後人力で掘り下げを行い、水田面の検出を試みた。しかし、調査区内で水田層が残存する範囲が幅50cm前後と狭いため水田区画等は不明である。一方、２区西端ではⅡ-５層の水田面を面的に調査できた。水田面上には人間や牛の足跡が残されていた（写真33）。さらに、２区東部では、Ⅱ-５層下で古墳時代後期及び弥生時代前期～中期の水路を確認できた。

２区の出土遺物には、鎌倉時代後半期～室町時代の土師器（写真34）・中国陶磁・銅銭、弥生時代前期の壺・甕・打製石鏃・石庖丁等がある。

（3）３区の調査

３区は旧女子寮建物北側のほぼ中央に位置する調査区で、2007年度に実施した試掘調査２トレンチ（調査番号：00715-2）の西側に隣接する（写真36）。２区と同じく、調査範囲の大部分が建物余掘り部分と重なり、実際に調査できた範囲は狭いが、Ⅱ-５層水田層を確認できた（写真37）。水田面上には畦畔や人間や牛の足跡が残されていた（写真38）。また、水田層の下層では、弥生時代前期～中期のSD-301とSK-302が出土した（写真39・40）。

（4）４区の調査

４区は旧女子寮建物と寄宿舎管理棟が接する位置

写真31　00905調査２区全景（西から）

写真32　00905調査２区西半部土層断面

写真33　00905調査２区西端部のⅡ- ５層水田面に残る足跡

写真34　00905調査２区西端部のⅡ- ４層砂礫層から出土した土師器

写真35　00905調査２区SD-201・202

写真36　00905調査３・４区全景（東から）

写真37　00905調査３区北壁土層断面

写真38　00905調査３区Ⅱ- ５層水田面の完掘状況（東から）

写真39　00905調査３区SD-301

写真40　00905調査３区SK-302

写真41　00905調査４区SK-401及びSD-402検出状況

写真42　00905調査４区SD-402完掘状況

写真43　00905調査４区古墳時代水田層下底面及びSD-403

写真44　00905調査４区SD-403検出状況

写真45　00905調査４区SD-403及び畦畔完掘状況

写真46　00905調査４区水田層下底面に残る足跡

写真47　00905調査５区全景（表土剥ぎ後、西から）

写真48　00905調査５区中世遺構面の完掘状況（東から）

にある（写真36）。北端は前年度に調査した１区南西隅と接する。近世のSK-401（写真41）、古墳時代後期のSD-402（写真42）、その北側では畦畔に挟まれたSD-403（写真43 ～ 45）が出土し、Ⅲ層の上面では上層の古墳時代の水田層から踏み込まれた足跡が多数出土した（写真46）。

（５）５区の調査

５区は旧男子寮南側の調査区である（写真47）。表土剥ぎを終わり、中世の遺物包含層を掘り下げると、掘立柱建物の一部と考えられる立柱痕跡を残す柱穴や小穴（写真48）、幅２ｍの東西方向にのびるSD-541（写真57 ～ 59）、SE-501（写真49 ～ 56）が出土した。出土遺物から鎌倉時代後半期～室町時代の遺構と判断できる。これらの遺構の下層に当たるⅢ層上面では、古墳時代と考えられるSD-529・530・542や柱穴（写真60）、これらに切られる弥生時代前期～中期のSD-542 ～ 544を確認できた（写真61・63）。弥生時代前期～中期の溝は、前年に１区で確認した水田遺構に伴うSD- ７・21等の延長部分に当たる。さらに、下層では弥生時代前期に遡るSD-545（写真64）が出土した。これらの水路の東側に当たる５区東端部では、北に向かって落ち込む旧河道SR-534を確認できた（写真62・64）。１区のSR- ８に対応する旧河道内で、最上部は黒色有機質土層で埋積されているが、径２～４㎝の礫や砂が多く混じり、１区で出土した水田域は５区までは広がっていないものと考えられる。この他、５区西端では、弥生時代と考えられるSD-546（写真65）やSK-547（写真66）が出土している。

（６）６区の調査

６区は旧男子寮建物北側に位置する（写真67）。調査区の北端では近世以降の旧河道SR-605で削られており、遺構・遺物は出土していない（写真76）。一方、中央部～西部では、調査開始直後、表土剥ぎとともに建物余掘り部分を掘り下げると、弥生終末期のほぼ完形の土器が余掘り壁面の砂礫層内から出土した（写真68）。さらに、Ⅱ層最下面～Ⅲ層を10㎝ほど掘り下げた時点で、弥生中期～終末期と室町時代の土器や石器が大量に出土し始めた（写真69 ～ 71）。弥生終末期の遺物が大半を占め、壺形のミニチュア土器（写真72）、コップ形土器（写真73）、打製石鏃（写真74）などがある。Ⅲ層下面では、古墳中期のSD-602 ～ 604が出土した（写真75 ～ 78）。これらに切られ弥生終末期のSD-607 ～ 610と、溜め池SX-611･612を検出できた（写真79 ～ 85）。SD-607 ～ 609は水路、SD-610は細長い集水用の溝と考えられる（写真87）。また、SD-608の溝底から有肩形の打製石斧が出土したが、より下層の縄文時代の遺構に伴う遺物である（写真86）。さらに、Ⅳ層の上面では弥生前期の溜め池SX-618、これに連結するSD-619・620が出土した（写真89 ～ 92）。加えて、Ⅳ層上面まで掘り下げた時点で、東へ向かってのびる浅い旧河道SR-621があらわれた。１区SR- ８や５区SR-534に流れ込む旧河道で、黒褐色粘質土層で埋積され、縄文晩期の深鉢・浅鉢が出土している（写真88・93･94）。この土層を掘り上げ、さらにⅣ- ２層上面で、Ⅳ- １層と共通する黄褐色土を埋土とし凹石や石礫が詰まるSP-622 ～ 624を検出できた（写真95 ～ 97）。１区や文京遺跡の調査成果を参考とすれば、縄文後期まで遡る遺構と考えられる。

以上、６区では、古墳中期、弥生終末～古墳初頭、弥生前期～中期、弥生前期の遺構が重層した状態で確認できた。出土遺物には、縄文後期～晩期の浅鉢や深鉢、弥生前期の壺・甕・打製石鏃・石庖丁、弥生終末期の甕・壺・鉢・ミニチュア土器・鉄刀子、古墳中期～後期の土師器・須恵器、鎌倉時代後半期～室町時代の土師器等がある。

（７）７区の調査

７区は寄宿舎管理棟部分にあたる。地中梁に囲まれⅣ層が若干削平された状態で遺構が残存していた（写真98）。SD-703・704は、1区で出土した奈良時代のSD-2・4の延長部分で、ほぼ東西方向にのびる直線水路の約60ｍを確認できたことになる（写真99）。また、SD-713は、SD-703・704から分岐する幅1ｍ前後の溝である（写真100）。さらに弥生時代～古墳時代のSD-705・706や柱穴が発見され（写真101）、御幸団地西側一帯に当該期の集落が営まれていることを明らかにできた。

（８）８区の調査

８区は御幸団地南・東・北側の管路敷設に伴う調査で、管路部分が浅く、枡部分の調査を行った。そのため、調査順に８- １区～８-19区の19地点である。基本層序の報告でも触れたように、御幸団地全域に広がる鎌倉時代後半期～室町時代の水田層や畠層の広がりを確認できた。

（９）９区の調査

９区は団地西側の管路敷設に伴う調査で、細長い調査区を５ｍごとに区割りしながら調査を進めた。調査

写真49　00905調査５区SE-501検出状況（西から）

写真50　00905調査５区SE-501石組み残存状況（北から）

写真51　00905調査５区SE-501石組み調査状況（北から）

写真52　00905調査５区SE-501半裁状況（北西から）

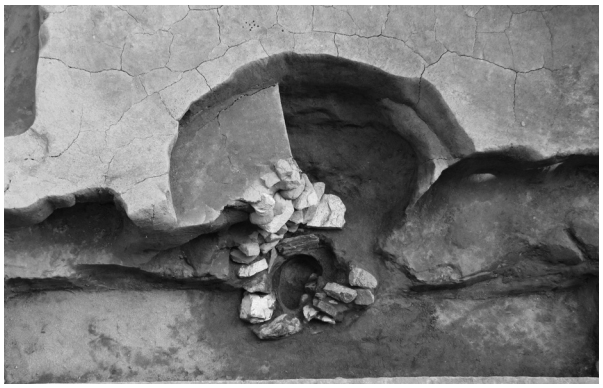


写真53　00905調査５区SE-501完掘状況１（北から）

写真54　00905調査５区SE-501完掘状況２（北から）

写真55　00905調査５区SE-501完掘状況３（北から）

写真56　00905調査５区SE-501底面に設置された曲げ物
出土状況（北東から）

写真57　00905調査５区SD-541（北から）

写真58　00905調査５区SD-541土層堆積状況（西から）

写真59　00905調査５区SD-541遺物出土状況

写真60　00905調査５区SD-529・530・542
（古墳時代、北西から）

写真61　00905調査５区SD-542～544（西から）

写真62　00905調査５区東半部SR-534（東から）

写真63　00905調査５区SD-542 ～ 544（東から）

写真64　00905調査５区SD-545及びSR-534（北東から）

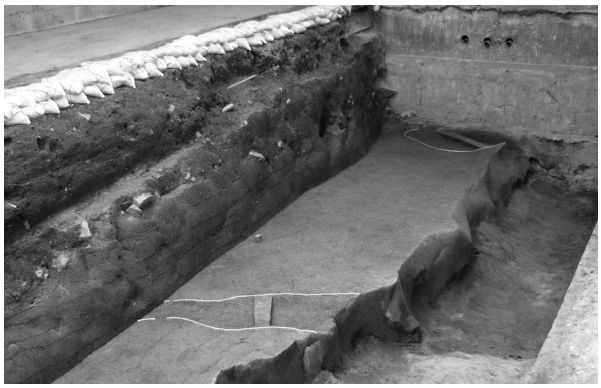


写真65　00905調査５区SD-546、SK-547（東から）

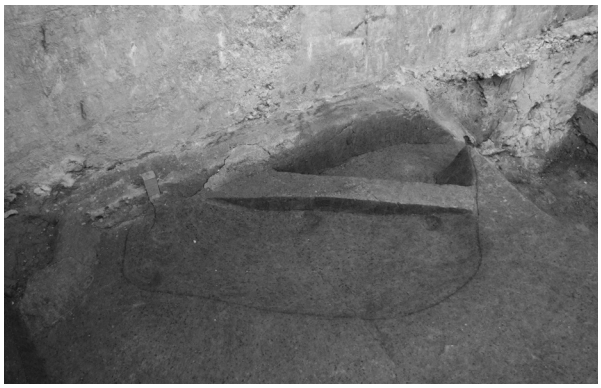


写真66　00905調査５区SK-547（北東から）

写真67　00905調査６区全景（表土剥ぎ後、西から）

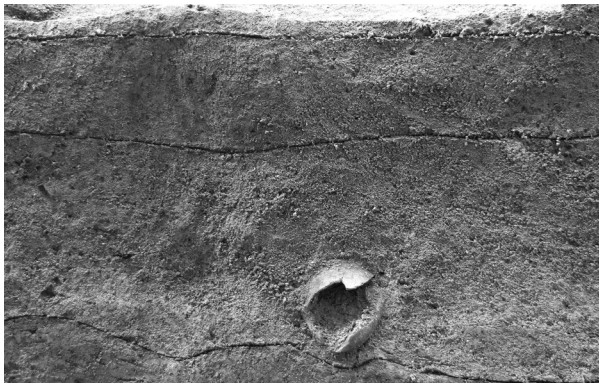


写真68　00905調査６区建物余掘り壁面から出土した弥生時代終末期の土器

写真69　00905調査６区西半部Ⅲ層上部遺物出土状況１（南西から）

写真70　00905調査６区西半部Ⅲ層上部遺物出土状況２（南西から）

写真71　00905調査６区西半部Ⅲ層上部遺物出土状況３

写真72　00905調査６区西半部Ⅲ層上部遺物出土状況４

写真73　00905調査６区西半部Ⅲ層上部出土コップ形土器

写真74　00905調査６区西半部Ⅲ層上部出土打製石鏃

写真75　00905調査６区西半部SD-602 ～ 604検出状況（東から）

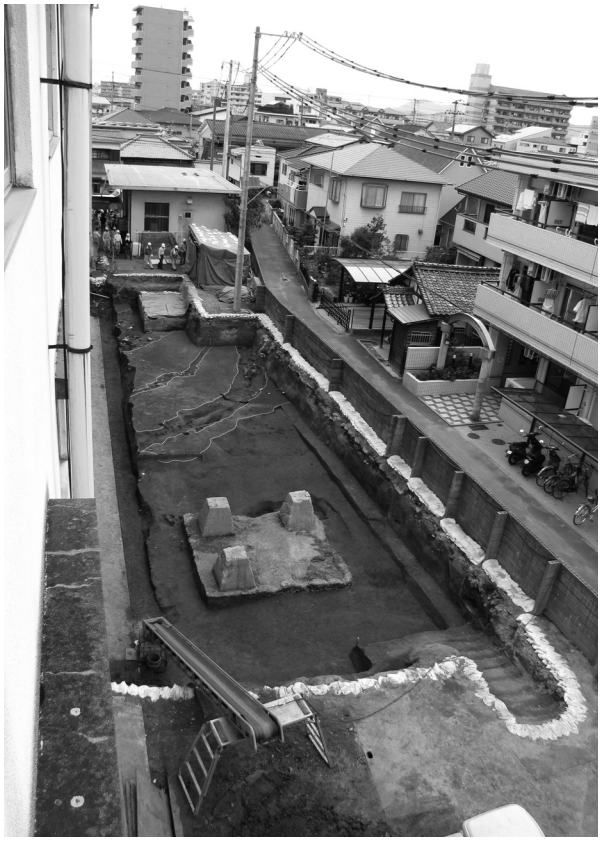


写真76　00905調査６区全景（SD-602 ～ 604完掘後、東から）

写真77　00905調査６区西半部SD-602 ～ 604完掘状況（東から）

写真78　00905調査６区西半部SD-602 ～ 604完掘状況（西から）

写真79　00905調査６区西半部SD-607 ～ 609、SX-611・612検出状況（東から）

写真80　00905調査６区西半部SD-607 ～ 609、SX-611・612検出状況（西から）

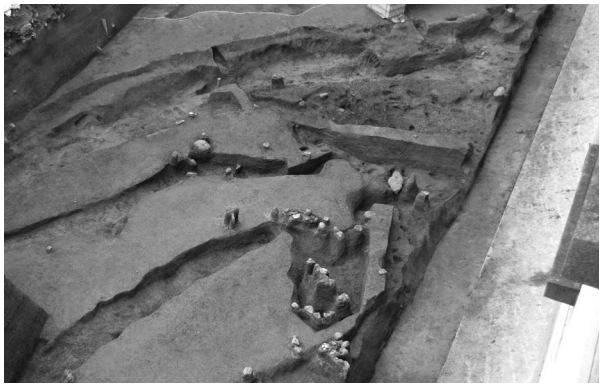


写真81　00905調査６区西半部SD-607 ～ 609、SX-611・612完掘状況（西から）

写真82　00905調査６区全景（SD-607 ～ 609、SX-611・612完掘後、東から）

写真83　00905調査６区西半部SD-607 ～ 610、SX-611・612完掘状況（東から）

写真84　00905調査６区西半部SD-610、SX-611・612完掘状況（南から）

写真85　00905調査６区SD-608・SX-611（南東から）

写真86　00905調査６区SD-608出土打製石斧

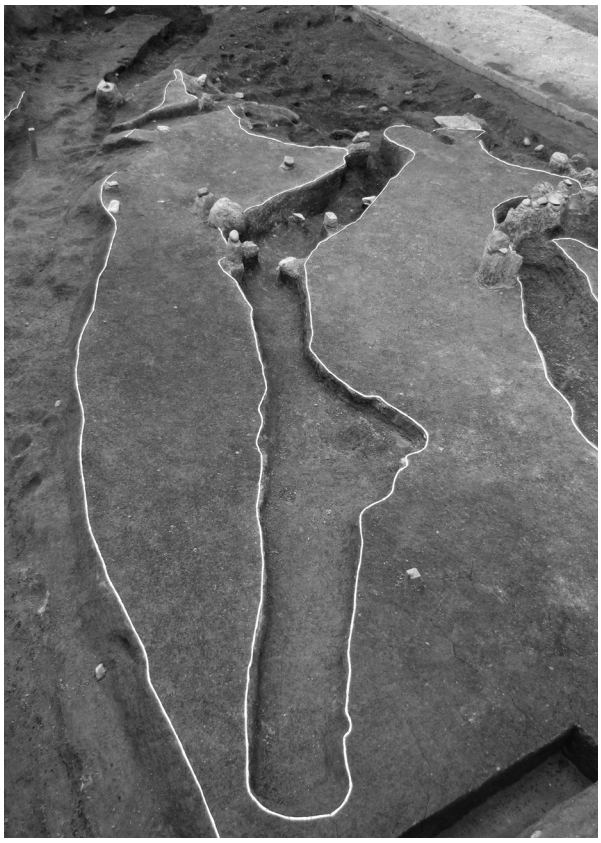


写真87　00905調査６区SD-610（西から）

写真88　00905調査６区Ⅳ層上面出土遺構（東から）

写真89　00905調査６区SX-618完掘状況（東から）

写真90　00905調査６区SX-618完掘状況（北から）

写真91　00905調査６区SX-618土層堆積状況

写真92　00905調査６区SD-619土層堆積状況

写真93　00905調査６区SR-621（西から）

写真94　00905調査６区SR-621遺物出土状況

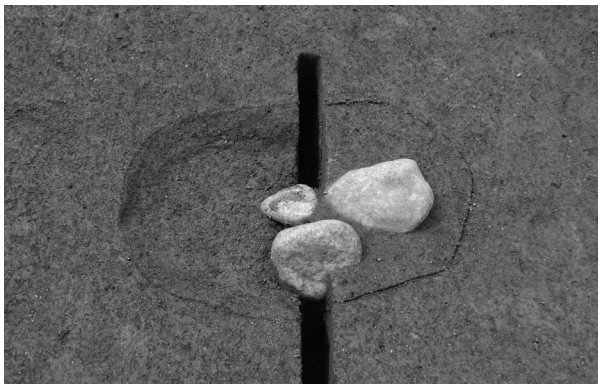


写真95　00905調査６区SP-622

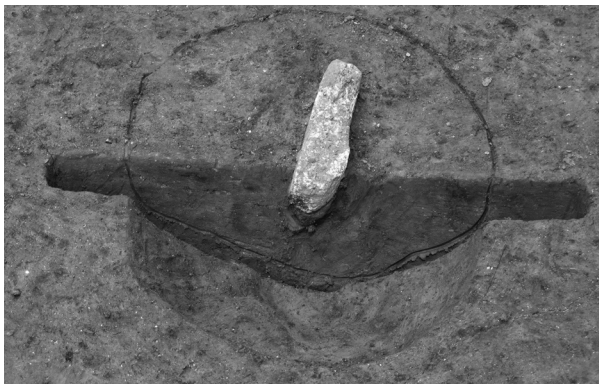


写真96　00905調査６区SP-623

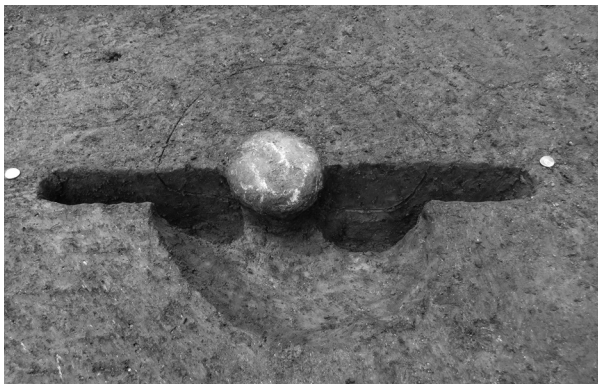


写真97　00905調査６区SP-624

写真98　00905調査７区全景（完掘後、北から）

写真99　00905調査７区SD-703・704（東から）

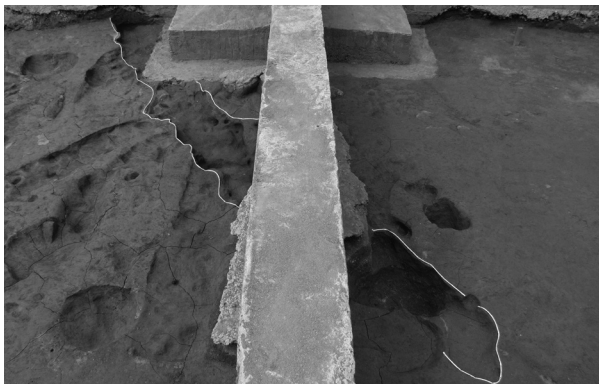


写真100　00905調査７区SD-713

写真101　00905調査７区SD-705・706、柱穴群

区全域で鎌倉時代後半期～室町時代の水田層を確認でき、最も北側の９- １・２区層では、SD-901･904や小穴、９- ３～ 14区の北半部では５区で確認できた室町時代のSD-541に対応するSD-911が出土した。

３　調査のまとめ

御幸団地は、地形的には石手川が造る扇状地の末端に位置する。これまで、周辺では遺跡の分布は知られていなかった。しかし、今回の調査を踏まえれば、御幸団地東側は近世以降の河道で旧地形が削られている一方で、西側を含めて団地全域におよぶ範囲に遺跡が営まれていたことが明らかになった。さらに、鎌倉時代後半期～室町時代、奈良時代、古墳時代、弥生時代、そして縄文時代晩期～後期の遺構が出土し、長期にわたる複合遺跡であることを把握できた。

その中で、６区でⅣ層に掘り込まれた縄文時代後期と考えられる小穴や、東に向かってのびる旧河道の最上部を埋める黒褐色粘質土層からは浅鉢や深鉢が出土し、後世の遺構の埋土からの出土であるが、有肩形打製石斧もある。周辺の微高地上に縄文時代後期～晩期の集落域が広がっている可能性が高い。

弥生時代前期～中期、弥生時代前期の遺構としては、６区で出土した溜め池と、これに連結する溝群がある。弥生時代前期でも前半期に遡り、掘り割り型の溜め池の最古級の事例である。扇状地末端の地形条件の下、水田経営のための用水の確保を工夫していることを物語っている。こうした溜め池に蓄えられた用水は、旧河道の落ち際に掘られた溝群で、１区で出土した水田域に導水されている。調査地点をつなぐ調査であるが、灌漑水田稲作が日本列島に定着する弥生時代前期～中期の水田だけでなく、溜め池や溝等の水利施設群を調査できたことは、１次調査の大きな成果と言える。つづく弥生時代終末期や古墳時代中期の水利施設群も出土している。

さらに、鎌倉時代後半期の水田層であるⅡ- ５層、室町時代の水田層であるⅡ- ３層は、団地全域に広がる。とくに、Ⅱ- ５層下底面は標高20.25 ～ 20.30mと、ほぼ平坦である。水田開発のために、広い範囲で土地の削平が行われたものと考えられる。また、５区では井戸や掘立柱建物を構成する柱穴群を確認でき、水田域の中に小規模な集落域が営まれる中世農村の景観を復元することができる。（田崎）

01001（樽味団地）附属高校畜舎新築工事に伴う発掘調査（樽味遺跡９次調査）

調 査 地 点　松山市樽味３丁目５番７号
　　愛媛大学樽味団地構内
調 査 面 積　8.2㎡
調 査 期 間　2010年10月13日
調査の種別　本格調査
調 査 担 当　三吉秀充
調 査 補 助　宮崎直栄
依 頼 文 書　農学部長発事務連絡
（平成22年２月23日付）

１　調査にいたる経緯

2010年２月、農学部より愛媛大学附属高校畜舎新築工事計画に伴う掘削工事計画が提示された。掘削工事の内容は、給水管・排水管設置に伴って現地表下35 ～ 75㎝までの掘削工事を行うというものであった。土木工事届けおよび発掘調査届け等の所要の手続きを行い、発掘調査の準備を進めた。発掘調査を必要とする地点は、工事計画地の南西部における汚水管掘削工事部分である。発掘調査は、隣接地で実施している（樽味団地）植物工場新営その他工事に伴う発掘調査（樽味遺跡10次調査）期間中に実施することとし、畜舎工事の準備が整った10月13日に発掘調査を行った。

２　調査の概要（図12、写真102・103）

発掘調査では、まず重機を用いて掘り下げを開始した。現地表下182㎝（標高40.69m）まで表土層の掘り下げを行い、既存の汚水管設置の際の掘り返し範囲内であることを確認した。工事による埋蔵文化財への影響がないことを確認した上で、重機による掘り下げ作業を終了した。調査区北側は、既存の汚水管設置工事の際の攪乱を受けていないことから、調査区北壁の精査を行い、土層の堆積状況について調査を行った。調

図12　01001調査（樽味遺跡９次）平面図・土層断面図（縮尺1／50）

写真102　01001調査調査区遠景（東から）

写真103　01001調査　完掘状況（南から）

査区北壁では現地表下93cmまで表土層であるⅠ層が続き、直下でⅣ層を検出した。Ⅳ層は浅黄色あるいは明黄褐色を呈した砂質土である。Ⅳ層中からの出土遺物はない。Ⅳ層は約87cm堆積し、Ⅳ層下で径５cm前後の円礫混じりの砂礫層を検出した。樽味遺跡における基本層序Ⅴ層と考えられる。Ⅴ層からの出土遺物はない。調査の記録を作成し、発掘調査を終了した。

３　まとめ

今回の調査地点は、既存の汚水配管部分の掘り返し範囲内におさまったことから、遺構や遺物は出土しなかった。本調査地点の東側に隣接する00909調査９トレンチでは、Ⅳ層を掘り込んでいる中世段階の遺構を検出していることから、今後も周辺における掘削工事を伴う開発工事の際には、埋蔵文化財の保存・記録化に努める必要がある。（三吉）

01002（樽味団地）植物工場新営その他工事に伴う調査（樽味遺跡10次調査）

調 査 地 点　松山市樽味３丁目118番３及び118番４の各一部　愛媛大学樽味団地構内
調 査 面 積　652.8㎡
調 査 期 間　2010年８月27日～10月22日
調査の種別　本格調査
調 査 担 当　三吉秀充
調 査 補 助　宮崎直栄
依 頼 文 書　施設基盤部長発事務連絡
（平成22年６月10日付）

１．調査に至る経緯

2009年秋、樽味団地において植物工場新営に伴い温室・研修棟等を新設する工事計画が報告されたことを受けて、2010年１月６日～８日、工事予定地において試掘調査（調査番号：00909）を実施した。この試掘調査の結果を基に、施設基盤部と埋蔵文化財調査室との間で、埋蔵文化財への影響がでないよう協議を行い、土木工事届けを提出した結果、本格調査が必要になったのは、研修棟新営工事地点（旧ライシメータ建物）および植物工場ハンドホール部分２地点の計３地点である。ライシメータ建物の解体工事が終了した８月27日から発掘調査に着手した。

調査では、研修棟新営工事地点をⅠ区、植物工場ハンドホール部分西側をⅡ区、東側をⅢ区とした。調査はⅠ区から調査に着手した。ただし、Ⅰ区の西側道路部分は、樽味団地内の交通との関係から、Ⅰ区終了後、Ⅰ区西側拡張区として、東側半分（写真124）、西側半分（写真125）と交通に支障がでないよう調査を行った。その後、Ⅱ区・Ⅲ区の調査を行い、10月22日に調査を終了した。

２．調査の概要

（１）基本層序

樽味遺跡構内では、遺跡全体にわたる基本層序を以下のⅠ～Ⅴ層に大別しており、本調査でもⅠ～Ⅴ層を確認している。

Ⅰ層：表土層にあたる瓦礫を含む造成土部分
Ⅱ層：造成以前の灰色系の近世～近代の水田層。

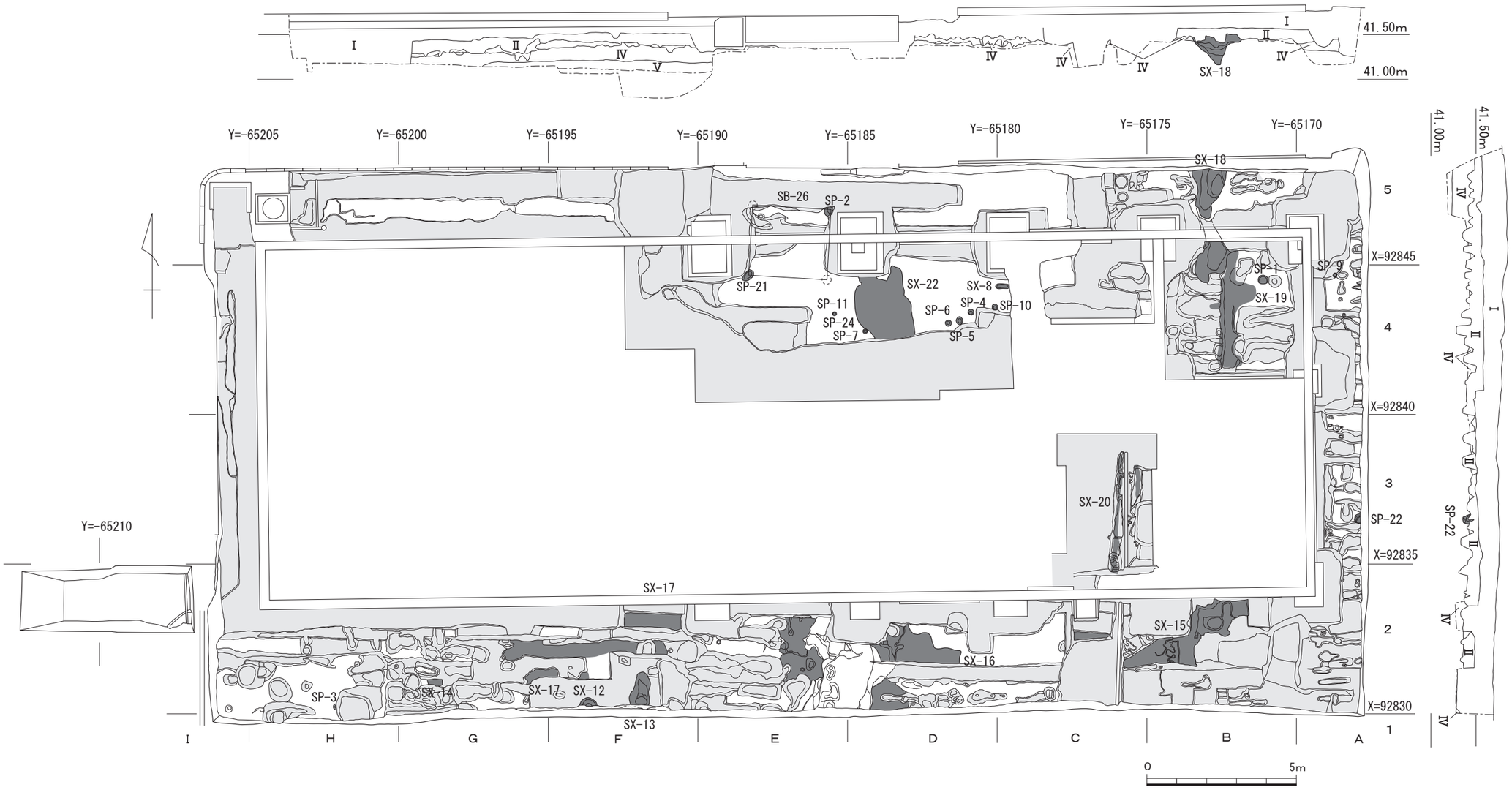


図13　01002調査（樽味遺跡10次）Ⅰ区平面図（縮尺1／150）・土層断面図（縮尺1／100・1／150）

図13裏

Ⅲ層：遺物を包含する黒色～黒褐色系の土層。
Ⅳ層：黄褐色系のシルト～砂質土層。下部には礫が混じる。
Ⅴ層：Ⅳ層下の花崗岩を主体とする砂礫層ないし礫層。

（２）調査区割り

農学部構内に設置されている２点の３級基準点から、調査区内に日本測地系平面直角座標系第Ⅳ系基準点の移動を行った。調査区Ⅰ区内の区割りは基準点X＝92825、Y＝－65165を基点として東から西へA・B・C･･･H･Iとし、南から北へ５ｍおきに１・２・３・４・５とし、両者を組み合わせた５ｍ方眼の区画を設けた。方眼区画は、東西および南北の区割りを基に、A1区やA ２区と呼称する。

（３）Ⅰ区の調査（図13・写真104 ～ 125）

重機を用いてⅠ・Ⅱ層を掘り下げた後、基本層序Ⅳ層上面で掘立柱建物（SB）１棟、柱穴･小穴（SP）12基、風倒木痕跡と考えられる遺構（SX）11基を検出した。

①掘立柱建物（SB）

SB-26：調査区北部E ４・５区で検出した１間×１間の掘立柱建物である。SP-2とSP-21からなる。SP-2は、深さ34cmの柱穴である。埋土は黒褐色シルトで粘性が強く、明黄褐色シルトのブロックを少量含む。SP-21は、北西部を攪乱により欠損している。推定で径40cm前後、深さ13cmの柱穴である。埋土は暗褐色シルトで、にぶい黄褐色シルトの５㎜～ 20㎜の楕円形ブロックや径１～２㎜の砂粒を少量含む。遺物が出土していないことから、詳細な時期比定はできないが、埋土の特徴から、中世以前の掘立柱建物と考えられる。

②柱穴・小穴（SP）

柱穴は、埋土が黒褐色～暗褐色を呈するもの（SP-１・４・５・６・７・９・10・11・21）と灰褐色を呈するもの（SP-３・23・24）とがある。

SP-１：B ４区で検出した径30 ～ 33cm、深さ５cmの小穴である。埋土は黒褐色シルトを主体とし、灰黄褐色シルトのブロックが混じる。土師器小片が１点出土している。

SP-3：H2区の攪乱壁で検出した径20cm、深さ19cmの小穴である。東側半分は攪乱により欠損する。埋土は暗灰黄色シルトで、明黄褐色砂質土の不定形ブロックを含む。

SP-4：D4区で出土した径20cmの円形の小穴で深さ15cmを測る。埋土は３層からなる。①層は暗褐色シルトで、黒褐色シルトの不定形ブロックを少量含む。②層は暗褐色砂質シルトである。③層はにぶい黄褐色シルトで、粘性が強い。砂礫は含まない。遺物は出土していない。

SP-5：D ４区で出土した径23 ～ 26cm、深さ25cmの小穴である。埋土は暗褐色シルトで、炭化物片を少量含む。砂礫を含まない。土師器の小片が出土している。

SP-6：D4区で出土した径20cm、深さ25cmの小穴である。埋土は暗褐色シルトで、褐色シルトのブロックを少量含む。わずかに粘性あり。遺物は出土していない。

SP-７：D4区で出土した径15cm、深さ３cmの小穴である。埋土は暗褐色シルトで、径１㎜の砂粒を含む。遺物は出土していない。

SP-9：A ４区で出土した径15cm、深さ1.4cmの小穴である。埋土は黒褐色シルトで、にぶい黄橙色砂質土のレンズ状ブロックを含む。遺物は出土していない。

SP-10：C ４区で出土した径20cm、深さ22cmの小穴である。埋土は黒褐色シルトで、やや粘性がある。１辺１cmの炭化物をごく少量含み、砂礫は含まない。遺物は出土していない。

SP-11：E ４区で出土した径14cm、深さ５cmの小穴である。埋土は暗褐色シルトである。遺物は出土していない。

SP-21：E ４区で出土した小穴である。北西部を攪乱により欠損している。推定で径40cm前後、深さ13cmを測る。遺物は出土していない。埋土は暗褐色シルトで、にぶい黄褐色シルトの５㎜～ 20㎜の楕円形ブロックを少量含む。径１～２㎜の砂粒を少量含む。

SP-23：A ３区で出土した径32cmの柱穴である(写真111)。東半分は調査区東側へ続く。柱穴底部で礎板石が出土している。埋土は２層からなる。①層は、灰黄褐色シルトで、柱痕跡あるいは柱の抜き取り痕である。②層は灰黄褐色シルトと明黄褐色砂質土のブロックからなる。近世陶器１点と中世土師器片が３点出土しているが、近世陶器は混入と考えられる。

SP-24：D ４区で出土した径23cm、深さ25cmの小穴である。SX-22の掘り下げ途中に、柱穴の存在を確認した。SX-22を掘り込む。埋土は灰褐色シルトで、橙色シルトのブロックを混じる。遺物は出土していない。

③その他（SX）

SX-8：C・D4区で出土した長辺45cm、短辺15cm長楕円

写真104　01002調査調査区遠景（北東から）

写真105　01002調査Ⅰ区遠景（北西から）

写真106　01002調査Ⅰ区Ⅳ層上面遺構検出状況（東から）

写真107　01002調査Ⅰ区Ⅳ層遺構完掘状況（東から）

写真108　01002調査Ⅰ区北端部Ⅳ層上面遺構検出状況
（東から）

写真109　01002調査Ⅰ区北端部Ⅳ層上面遺構完掘状況
（東から）

写真110　01002調査Ⅰ区東端部遺構検出状況（北から）

写真111　01002調査Ⅰ区SP-23完掘状況（西から）

写真112　01002調査Ⅰ区中央部Ⅳ層上面遺構検出状況（東から）

写真113　01002調査Ⅰ区中央部Ⅳ層上面検出遺構完掘状況（西から）

写真114　01002調査Ⅰ区北東部Ⅳ層上面遺構検出状況（西から）

写真115　01002調査Ⅰ区北東部Ⅳ層上面遺構完掘状況（西から）

写真116　01002調査Ⅰ区南東部Ⅳ層上面遺構検出状況（北から）

写真117　01002調査Ⅰ区Ⅳ層上面遺構完掘状況（北から）

写真118　01002調査Ⅰ区南端部Ⅳ層上面遺構検出状況（東から）

写真119　01002調査Ⅰ区南端部Ⅳ層上面遺構検出状況（西から）

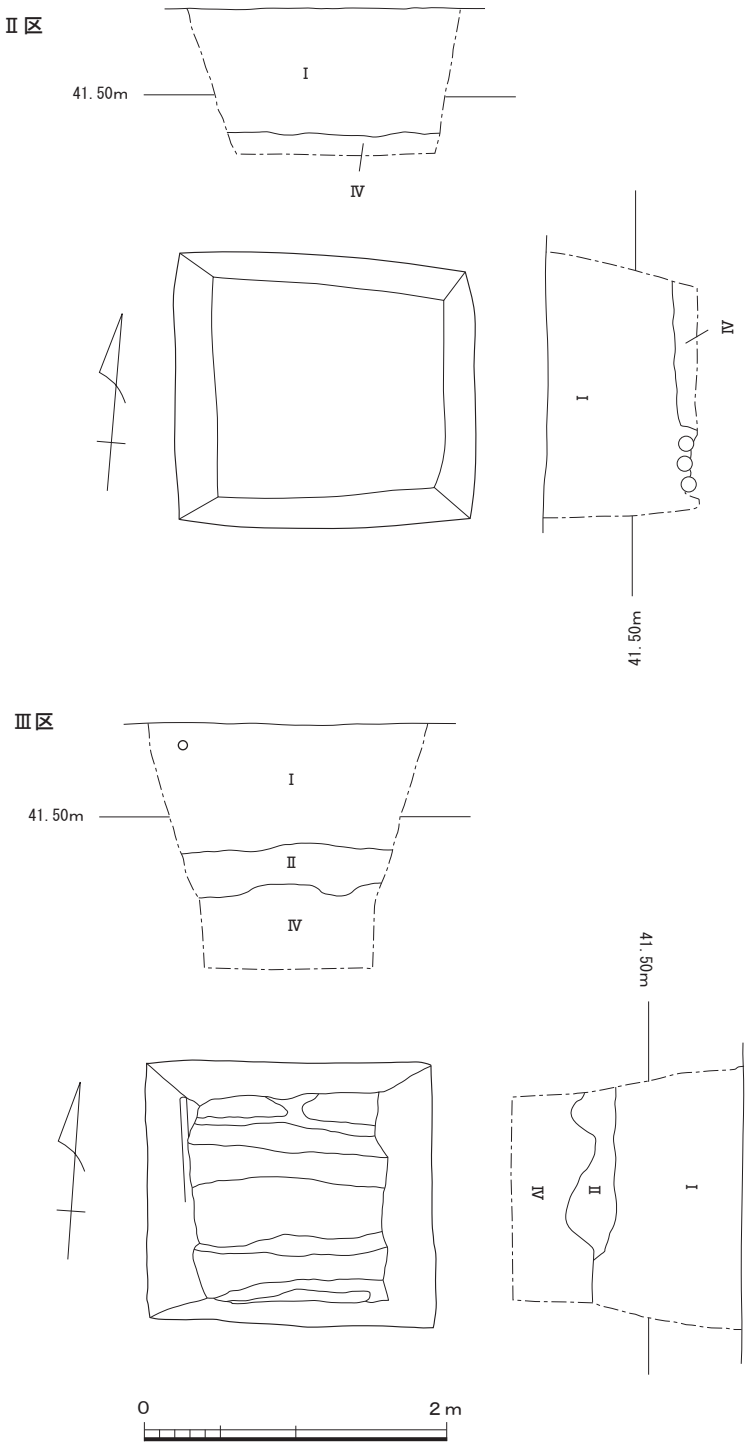


図14　01002調査（樽味遺跡10次）Ⅱ・Ⅲ区平面図・土層断面図（縮尺1／50）

形を呈する深さ10cmの風倒木痕である。埋土は暗褐色シルトで、砂礫は混じらない。遺物は出土していない。畠の畝と考えられる。

SX-12：調査区南西部のF２区で出土した深さ17cmの風倒木痕である。遺物は出土していない。埋土は黒褐色～暗褐色シルトで、粘性が強く、にぶい黄褐色シルトのブロックを少量含む。

SX-13：調査区南西部のF２区で出土した深さ20cmの風倒木痕である。遺物は出土していない。埋土は黒褐色～暗褐色シルトで粘性が強い。にぶい黄褐色シルトのブロックを少量含む。

SX-14：調査区南西部G２区で出土した風倒木痕である。埋土は黒色シルトで、遺物は出土していない。

SX-15：調査区南東部B２・C２区で出土した風倒木痕である（写真120・121）。幅約１m前後で、北東から南西方向へのびる。北東部はライシメータ建設基礎工事の際に破壊されていた。深さ約85cm。土師器小片が少量出土している。埋土は黒褐色～暗褐色シルトで灰黄褐色や黄褐色シルトの径５mm～10mmのブロックを少量含む。

SX-16：調査区南部D２・E２区で出土した風倒木痕である（写真122・123）。SX-17と接するが攪乱により欠損を受けており、境界は曖昧である。10次調査区の南側に隣接する樽味遺跡６次調査で検出したSK-12と一連の遺構である。SK-12は埋土の特徴などから風倒木痕と考えられている。深さ約85cmである。弥生時代中期の甕底部片や古代の須恵器・土師器片が少量出土している。埋土は黒色～暗褐色シルトで、褐色シルトのブロックを少量含む。南壁土層で土壌サンプリングを行っている。

SX-17：調査区南西部E２・F２・G２区で出土した風倒木痕である。土器片が１点出土している。埋土は黒色～暗褐色シルトで、褐色シルトのブロックをごく少

写真120　01002調査Ⅰ区SX-15遺構検出状況（東から）

写真121　01002調査Ⅰ区SX-15完掘状況（東から）

写真122　01002調査Ⅰ区SX-16遺構検出状況（東から）

写真123　01002調査Ⅰ区SX-16完掘状況（東から）

写真124　01002調査Ⅰ区西側拡張区東側完掘状況（北から）

写真125　01002調査Ⅰ区西側拡張区西側完掘状況（北から）

写真126　01002調査Ⅱ区完掘状況（東から）

写真127　01002調査Ⅲ区完掘状況（東から）

量含む。
SX-18：調査区北東部B ４・５区で出土した風倒木痕である。東西幅は約1.7m、深さ約60cmを測る。埋土は暗褐～灰黄褐色シルトである。弥生時代中期の甕の底部片が出土している。埋土に関しては土壌サンプリングを行っている。
SX-19：調査区北東部B ４区で出土した風倒木痕である。埋土は暗褐色シルトで、褐色シルトのブロックを多く含む。近・現代の磁器片が１点出土しているが、上層からの混入品と考えられる。
SX-20：調査区南東部C ２・３区で出土した風倒木痕である。攪乱による欠損部分が多く、掘り形などの形状については不明である。埋土は黒色～暗褐色シルトで褐色シルトのブロックを少量含む。土師器片が１点出土している。
SX-22：調査区中央部D ４区で検出した幅約1.9mの落ち込みである。遺物は出土していない。遺構検出段階には、基本層序Ⅳ層を掘り込む遺構と考えていた。しかし、埋土を掘り進める過程で、土層観察畦における土層堆積の検討から、人工的な遺構ではなく、Ⅳ層の堆積単位の一部であると判断した。
SX-25：調査区北東部B ４区で検出した落ち込みである。遺構検出段階では、遺構として位置づけていた。埋土中から弥生土器片が出土したが、ガラス片なども出土したことから近現代の攪乱と判断した。

（４）Ⅱ区の調査（図14・写真126）

制御化農業実験実習棟に近接した植物工場に伴う電気ハンドホール設置部分で、東西２m×1.8mの長方形の調査区である。重機を用いて瓦礫を伴ったⅠ層の掘り下げを行い、現地表下85cmで基本層序Ⅳ層が出土した。Ⅳ層は、灰黄褐色シルトで、遺物を含まない。一部青灰色である。重機を用いて160cmまで掘り下げを行い、遺跡への影響がないことを確認して調査を終了した。

（５）Ⅲ区の調査（図14・写真127）

制御化農業実験実習棟に近接した植物工場に伴う電気ハンドホール設置部分で、東西1.9m×南北1.75mの調査区である。重機を用いて瓦礫を伴ったⅠ層の掘り下げを行い、現地表下約80cmで基本層序Ⅱ層が出土した。Ⅱ層はにぶい黄褐色～灰黄褐色シルトで近世～近代の畠層である。Ⅱ層からは人力に切り替えて、掘り下げを行った。現地表下105cm～ 125cm基本層序Ⅳ層が出土した。Ⅳ層上面では、東西方向にのびる近世段階と考えられる畠の畝を検出した。Ⅳ層は、明黄褐色～褐色シルトで、遺物を含まない。重機を用いて160cmまで掘り下げを行い、遺跡への影響がないことを確認して調査を終了した。

３．まとめ

本調査ではⅠ～Ⅲ区で調査を実施したが、遺構・遺物を確認できたのはⅠ区のみであった。Ⅰ区では基本層序Ⅳ層上面で掘立柱建物（SB）１棟、柱穴・小穴（SP）12基、風倒木痕と考えられる遺構（SX）11基を検出した。特に、掘立柱建物や柱穴・小穴から出土した遺物は少なく、遺構の時期を比定することは難しい。本調査地点の南側に隣接する樽味遺跡６次調査では、古代末～中世前期の掘立柱建物や土壙が確認されており、本調査地点で検出した遺構も同時期のものと考えておきたい。また、Ⅱ区、Ⅲ区では明確な遺構は検出されなかったが、Ⅱ区ではⅠ層の直下で、Ⅲ区ではⅡ層の直下でⅣ層を確認しており、近現代の削平を受けたため残存していなかったと考えられる。　（三吉）

01004 （樽味団地）植物工場新営その他工事に伴う調査（樽味遺跡11次調査）

調 査 地 点　松山市樽味３丁目118番３及び118番４の各一部　樽味団地内
調 査 面 積　8.43㎡
調 査 期 間　2010年12月24日
調査の種別　本格調査
調 査 担 当　三吉秀充
調 査 補 助　宮崎直栄
依 頼 文 書　農学部長発事務連絡
（平成22年10月27日付）

１．調査に至る経緯

2010年10月、農学部事務課より樽味団地における植

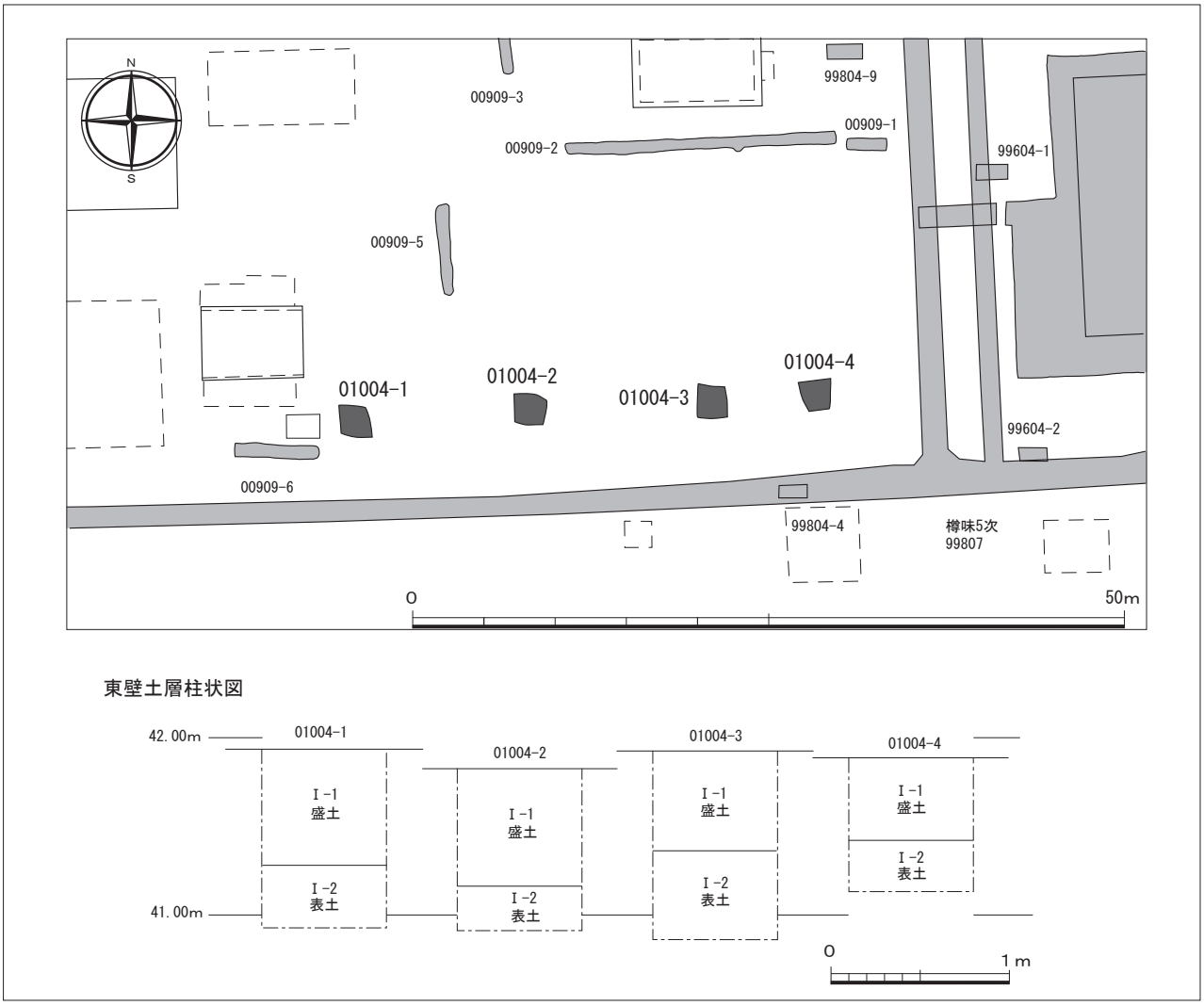


図15　01004調査（樽味遺跡11次）平面図（縮尺1／500）・土層柱状図（縮尺1／40）

物工場の新設に伴い溶液回収タンクの埋設工事を行いとの依頼があった。工事予定地周辺における調査から埋蔵文化財への影響があると考えられたため、11月２日付けで土木工事届を提出した。その結果、愛媛県教育委員会より発掘調査実施の指示があり、所要の届を行った後、12月上旬に、埋蔵文化財調査室、農学部事務課、工事施工業者とで、調査計画について調整を行い、2010年12月24日に発掘調査を実施した。

２．調査の概要（図15）

工事部分は、西から順に１トレンチ、２トレンチ、３トレンチ、４トレンチとした。

１トレンチ（写真128）

重機を用いて、現地表下100cm、標高40.90mまで掘り下げた。旧表土面から約65cmの盛土を行っており、旧表土面から約35cmの深度である。現地表下から掘削面まで樽味遺跡基本層序Ⅰ層が続いていることを確認した。隣接する00909調査６トレンチでは、標高39.80m前後で古代の自然流路が出土している。掘り下げ停止面と自然流路検出面との間に約110cmの土層が存在することから、以下に関しては現地保存とした。遺物は出土していない。

２トレンチ（写真129）

重機を用いて、現地表下90cm、標高40.90mまで掘り下げた。旧表土面から約65cmの盛土を行っており、旧表土面から約25cmの深度である。現地表下から掘削面まで基本層序Ⅰ層が続いていることを確認した。１トレンチと同様の判断で、以下に関しては現地保存とした。遺物は出土していない。

３トレンチ（写真130）